♪♪♪　いい歌、いい町、いい自然　♪♪♪

No. 519
2005. DEC

広報 あかいけ

12

◉特集

この町で生きる。

赤池で112年

日本最高齢者の皆川ヨ子さん（常福）
健康長寿日本一、112歳の笑顔。
来月1月4日は113歳の誕生日です。

健康

最近、疲れやすくなったな。
何か悪い病気かな…

介護

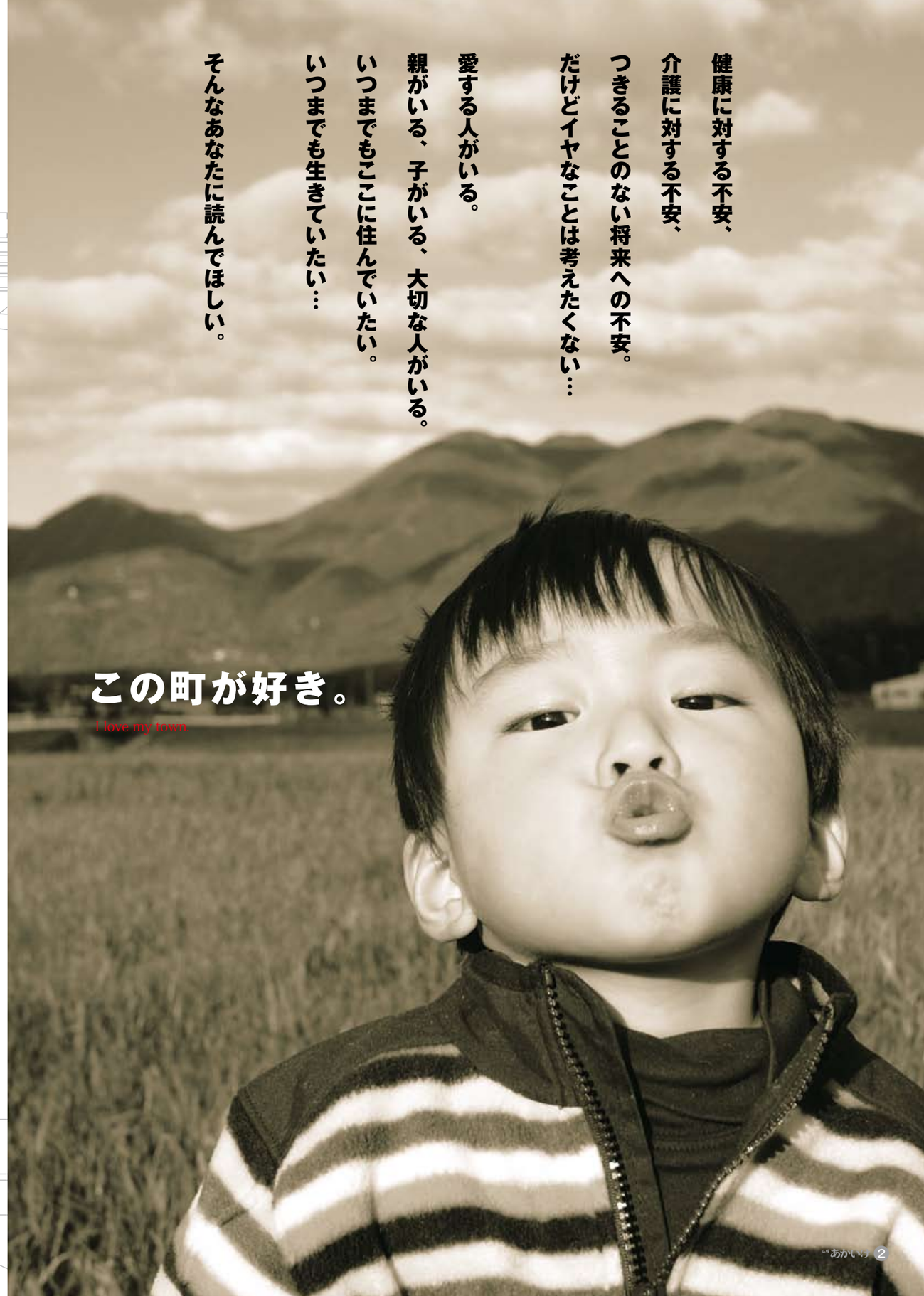
自分が、大切な人が…
倒れたらどうなる。

この町で生きる…

My life… in my town.

不安

いつまでも幸せに生きていたい。
でもどうすればいい…



健康に対する不安、
介護に対する不安、
つきることのない将来への不安。
だけどイヤなことは考えたくない…
愛する人がいる。
親がいる、子がいる、大切な人がいる。
いつまでもここに住んでいたい。
いつまでも生きていたい…
そんなあなたに読んでほしい。

この町が好き。

I love my town.

あなたのそばにある大きな安心でありたい。

総合保健施設コスモスが、この町に誕生しました。
診療所、健診センター、保健福祉センターなどを統合した
合理的な複合型施設が、今年4月から動き始めました。

「健診」をベースに疾病と介護予防をきめ細かくサポートする健康づくり。
住み慣れた自宅で穏やかに療養できる「在宅介護」の環境づくり。
いつまでも健やかに生きる「健康長寿」を目指したまちづくり。
これらを保健・医療・福祉の融合による
地域密着型の一貫したサービスで展開しています。

しかし、いまだに「施設に行ったことがない」
「どんな機能があるのか知らない」などの声があるのも確か。
コスモスへ行く「一歩が踏み出せない」という人も少なくありません。

今回、コスモスの取り組みと果たす役割を
3人の「生きる姿」に迫りながら紹介し、
病気にならない、寝たきりにならない
ライフスタイルを考えます。

この特集がコスモスに足を運ぶ足がかりになり、
安心できる施設を身近に感じながら
自分の健康は自分で守る
「セルフケア」の一歩を踏み出す
きっかけになればと思います。

第一部 助かる命があります［受けてください、健診］

クローズアップ

健診で発覚したがんを克服した

相部 靖子（あいべ やすこ）さん

生きていてくれてありがとう。

↑「娘たちが支えてくれたおかげで今を生きています」と相部靖子さん（稲荷町）、思い出の手紙を胸に…

「あれから13年…」。平成4年12月にがんの摘出手術を受けた相部靖子さん（64）。夫をがんで亡くした半年後、初めて受けたがん健診で自らの病状が発覚しました。術後、無事1年が過ぎたころ、一人娘の谷川陽子さんからもらった一通の手紙。家も近く、毎日のように行き来しているのに、めずらしく改まって手渡されたそうです。その手紙には、忙しくてもにぎやかで平凡な毎日を送ることができることへの感謝、たくさんの愛情を注いでくれた父への感謝、この世で一番尊敬する母への感謝の言葉が3枚に渡ってつづられていました。「本当に生きていてくれてありがとう。病気に打ち勝ってくれてありがとう」。愛する人がすぐそばで生きていてくれることへの喜びにあふれた手紙でした。

【相部靖子さんの宝物】手紙
My treasure "Letter"

あなたを愛する人、あなたを必要とする人がいます。
大切な人がいつもの場所にいて、元気で、笑顔でいてくれる。
そんな日常の幸せは健康によってもたらされます。
初期に自覚症状が少ないがんや生活習慣病は
先送りすると取り返しのつかないことになりかねません。
大切な人を失いたくないから…
受けてください、健診。
あなたの体は、あなただけのものではなく、
その命は、たった一つしかないのですから。

自分の命を守るためには、受け身ではいけない。現実から目を背けてはいけない。［健診］クローズアップ

生きることの喜び

相部（あいべ） 靖子（やすこ）さん

←「もうおばあちゃんの背を追い越したね」。優しいまなざしで孫の谷川友斗さん（12）を整髪する相部靖子さん。友斗さんは靖子さんの退院1週間後に誕生した。

夫をがんで失うまで、健康であることは当たり前のことだと思っていました。

「健診で救われた命、家族に生かされ支えられた命を大切に生きています」

夫の分まで生きようと思った

「オレね…」薄れゆく意識のなか、相部學（まなぶ）さんは、はにかみながら妻・靖子さんの手を強く握った。そして数分後、静かに息をひきとった。続きの言葉は聞けないまま…　平成4年4月9日、享年52、娘・谷川陽子さんと二人だけで見送った、あまりにも急で、あまりにも早い最期の別れだった。

数日前、死期を悟った學さんは、妻に「ありがとう。さよなら」、娘には「母さんのことを頼む」と言い残していた。死因は肝臓がん。2か月前には長崎での旅行を元気に楽しんだ。夫婦で経営する理容店でもバリバリと働いていた。とても病魔に侵されているとは、だれも、そして本人も思ってはいなかった。

「旅行から帰った夫が急にわき腹を押さえて『ここがキツイねー』って、体の不調を訴えました。用心のつもりで町外の病院を受診しましたが、結果が出ると即入院が告げられました。診察室で病名を耳にしたとき、目の前が真っ暗というより、真っ白になりました」。

「手が震えて仕事になりませんでした」と靖子さんは振り返る。

医師から告げられた余命は1年、その後3か月、2週間、1週間と検査するたびに短くなっていった。本人に告知はせず、前向きな姿勢に期待し、ひたすらがんからの生還を信じた。しかし、病魔には勝てなかった。

「夫の死からは、ずいぶんの間立ち直れませんでした。なにしろ急でしたから、現実を受け入れられませんでした。でも、娘夫婦をはじめ親族や友人から励まされるうちに『夫の分まで生きなきゃ、自分の体、自分の健康は自分で守らなきゃ』って思うようになったんです」。

←娘の谷川陽子さん（左）からもらった大切な手紙。「当時、涙で読めませんでした」と靖子さんは振り返る。

健診で見つかった自らのがん

夫を亡くした半年後の10月、靖子さんは初めて住民健診のがん検診を受診した。「現実から目を背けてはいけない」と強く自分に言い聞かせた。結果は2か月後に送られてきた。目に飛び込んできた「要精密検査」の文字、息をのんだ。急いで赤池町立病院を受診した。

「『よく健診を受けられましたね』って強く言った院長先生（現コスモス診療所・詫摩寮三所長）の第一声が忘れられません。病名を聞いたとき、夫の時とは違って血の気がサーッと引いていく感じで、比較的冷静に受けとめました」。

大腸がんだった。幸い進行の遅いケースだった。娘の出産予定日前には退院できるということで、手術を決意。娘家族が何よりも心強い支えになってくれた。病室の窓の下からは散歩に来た愛犬ポッキーも応援してくれた。クリスマスイブの12月24日に手術は成功。その後、患部の癒着による腸閉そくに苦しんだが、明けて2月3日に退院。1週間後に産声を上げた二人目の孫、友斗さんの誕生に間に合うことができた。健診で命が救われた。

「やっと迎えた退院、言葉になりませんでした。健康のありがたさを強く感じました。あの苦悩を乗り越えられたから、どんな困難でも乗り越えられます。毎日忙しいですけど、娘夫婦や孫たちがしょっちゅう顔を見せてくれて…　にぎやかで平凡な日々を送ることができる喜びと自分の健康への感謝の気持ちを忘れたことはありません」。

失ってわかった健康のありがたさ

手術以降も毎年健診を受け、どこにも異常はなく、これまで健康を維持しているという靖子さん。食事や運動など生活習慣を見直し、自らの健康管理に努めてきた。以来、病気という病気をしたことがなく、13年間で1回もかぜをひいたことはない。毎年、町から国民健康保険の無受診者として記念品が贈られている。自分の命が早期発見によって救われたことから、友人や知人にも健診を勧め、なかには重い病気が見つかった人もいた。

「あのとき、母が健診を受けていなかったら、今はもうこの世にいないかもしれません。父が自分の分まで母へ命をあげたように感じる事があります」と娘の陽子さん。父・學さんの最後の言葉の続きは「きっと、母に『愛してるよ』って言いたかったのでしょう。照れ笑いを浮かべてましたから」と、陽子さんもはにかむ。

「自分の命を守るためには自分が健康に関心を持ち、そして行動しなければいけない。受け身ではいけない。家族に生かされ、支えられた命を大切に生きています」。

夫の死から健康に対する意識が変わったという靖子さん。それまで、健康であることは当たり前のことだと思っていた。失ったときにわかった健康のありがたさ、命の大切さ、そして尊さ。相部靖子さんは感謝の気持ちを忘れることなく、穏やかで楽しい毎日を一日一日、かみしめるように生きている。

進化する健診

［集団健診から施設健診へのシフト］

病気の早期発見と予防に欠かせない健診。健康ライフは健診がスタートラインになります。

今年から健診センターでの施設健診に切り替え、よりきめ細かく精密な検査が可能になりました。

新たに肝臓・ひ臓・すい臓・腎臓・胆のうを調べる腹部超音波検査（奇数年齢対象）を基本健診に無料追加。健診地区を月ごとに設定しているので、ゆったりと少人数で受診できる（1日最大15人）。事前の健診セット受け取りと料金前払いも不要になり、健診セットは事前送付、料金は当日支払い、当日の検査項目追加も可能になった。

←日本人女性の30人に1人がかかるといわれる乳がん。乳腺撮影の機器「マンモグラフィー」を導入したことで、微細ながん細胞も発見できる。健診では腹部超音波検査や乳がん検診のほかに、基本健診（医師診察、身体計測、血圧測定、尿検査、心電図検査、眼底検査、血液検査）、肺がん検診（胸部X線撮影、喀痰（かくたん）検査）、胃がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症検診、前立腺がん検診などを行っている。1項目からでも受診可能、料金、申し込みなど詳しくは健診センター☎28-5512まで。

転ばぬ先の健診

「時間がない、面倒くさい」と健診を受けない人の大半が理由を口にします。しかし、健康への不安はだれもが持っているもの。「今はまだ心配することはない」という楽観的な人や「健診で病気が見つかるのが恐い」「余計なことをしない方が気楽に生きられる」という現実逃避的な意識がその背景にあるようです。

「健康づくりはまず健診から」と言われるように、まず自分の状態を知り、疾病を治療・予防し、生活習慣の改善点を見いださなければ何も始まりません。傾向として、毎年健診を受けている人は健康意識の高い人。健診も受けず、健康に無関心な人が自覚症状に気づいたとき、病気が進行しているケースが多いのです。

きめ細かな施設健診

今年、赤池町の健診は大きく変わりました。4月にオープンしたコスモス診療所に健診センターを設置し、集団健診から施設健診へとシフトしたのです。このことによって、まず受診する機会が大幅に増えました。従来は年1回、5日間の日程でしたが、6月から2月までの9か月間にわたり長期間の受け入れが可能になりました。施設健診は集団健診ではできないきめ細かさが特徴。それまでは体育館と健診車両で1日150人を流すように行われていた検査もゆったりとした気持ちで、プライバシーを十分に保たれた状態で受けることができ、精度の高い最新機器でていねいに検査します。

また、その日にわかる結果はその日のうちに伝えます。以前は自分のレントゲンフィルムさえ見ることはできませんでしたが、施設健診ではレントゲンや採血など、健診結果を踏まえた診察や栄養指導を当日に受けられるようになりました。

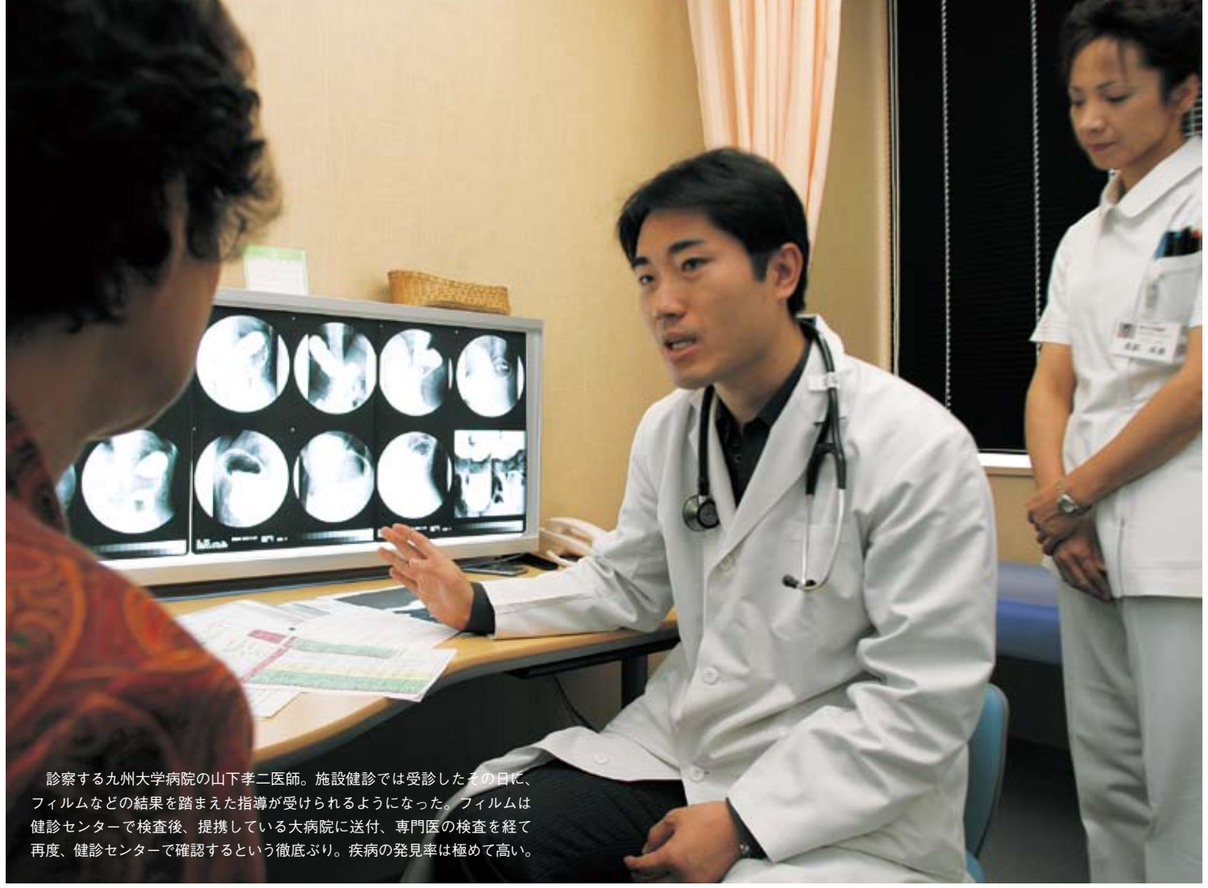
しかしながら、赤池町の健診受診率は伸び悩んでいます。町内の40歳以上すべての人に通知して呼びかけていますが、受診率は依然として低迷。本年度の受診率目標を3割に設定したのに対し、10月末時点では14・7％にとどまっています。

一方、年々医療費は増加し、赤池町の国民健康保険でかかる負担費用は昨年度で年間およそ5億6千万円。財政面からも病気を未然に防ぐことが重要になってきました。

求められるセルフケア

町の保健課では、健康の自己管理を重視し、健診後のフォローにも力を入れています。健診を担当する中島貴美子保健師は「健診を受けた人は『絶対に病気にさせない』という気概で臨んでいます。しかし、健康に関心がある人とない人の差は開くばかり。自分の健康は自分で守るというセルフケアの意識づけをいっそう図る必要があります」と力を込めます。

現在、導入したばかりの健康情報システムで住民の健康課題を踏まえて保健行政に反映していく準備が進んでいます。また、自治医科大学と10年間にわたって町内638人の健康状態を追跡調査してきた情報分析を進め、今後の住民の健康づくりに生かす方針です。合併後の福智町では施設健診と集団健診の選択制の方向で協議が進められています。いずれにしても、それらの取り組みを生かし、効果を得るためには、まず、わたしたち一人ひとりが健康に対する意識を変え、行動に移すことが不可欠になります。



診察する九州大学病院の山下孝二医師。施設健診では受診したその日に、フィルムなどの結果を踏まえた指導が受けられるようになった。フィルムは健診センターで検査後、提携している大病院に送付、専門医の検査を経て再度、健診センターで確認するという徹底ぶり。疾病の発見率は極めて高い。

↑健診を担当する中島貴美子保健師。結果説明会では医師、看護師、管理栄養士、保健師が個別指導する。会場の入口には食生活改善推進協議会の試食もある。

↑結果を見ながら健診当日に行われる栄養指導。管理栄養士が個別にアドバイスする。毎日の食事に関することは夫婦で受けてもらうこともある。

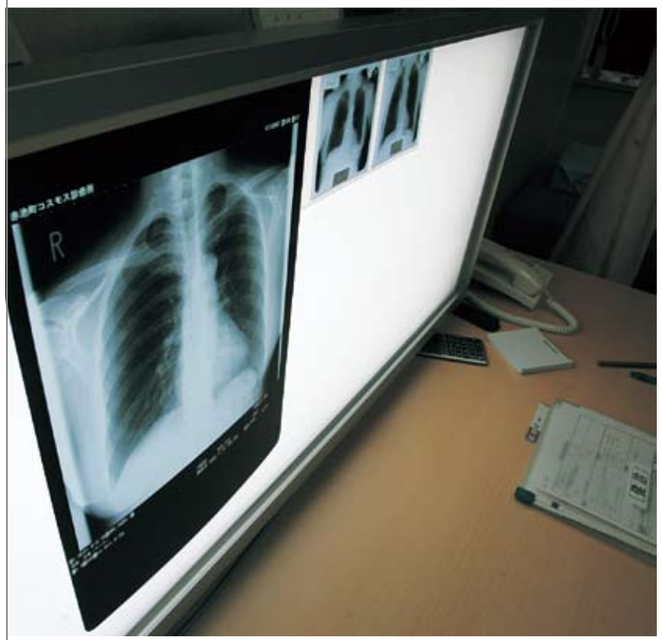
↑健診後のフォローとして、血液サラサラ教室、介護予防も兼ねたいきいき体操教室、かんたんステップ運動教室など生活習慣を改善する各種教室を開催。

↑トレーニングルームでは体力測定と健診結果を踏まえ、トレーナーが個別指導を行う。

Medical examination

受けてください、健診。

早期発見の鍵は健診 助かる命を助けたい



←早さと効率化を求める集団健診ときめ細かさが特徴の施設健診の差は、精度の高さにも表れてくる。手前が今年の施設健診、奥が昨年までの集団健診のレントゲンフィルム。大きさと画質の差は歴然としている。

赤池町のタウンドクター
詫摩衆三に聞く

「がんは喫煙、飲酒、食事、運動、ストレスなどの環境因子や遺伝因子が複雑に作用して発症します。広い意味ではがんも生活習慣病。健診と医療が融合したかたちで、住民の生活習慣病の解消に立ち向かっていきたい」。町の医療の求心力として日夜患者と向き合い続けるコスモス診療所の詫摩衆三所長。「日ごろから住民を診ている医師が健診に携わることで、生活習慣の根っこから改善し、健診の効果を高めることが可能になった」と、地域密着型による施設健診のメリットを強調します。

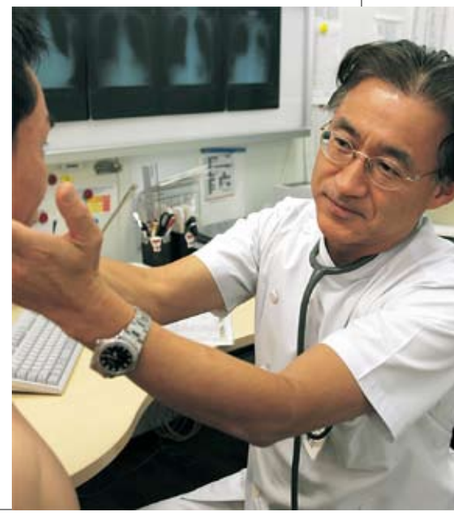
きめ細かさが特徴の施設健診は、一人平均2時間半から3時間かかります。詫摩所長は「年に一回、自分の健康のために時間を費やしてもいいと思える『価値ある健診』にしたい。『行ったかいがあった』と思われるような利用者のセルフケアにつながる機会にしたい」と効率化ばかりに走らない実を結ぶ健診スタイルを大切にします。

赤池町の健診結果を見ると生活習慣病の潜在的な問題を抱えている人が少なくありません。内臓肥満を背景に高血圧、糖尿病、高脂血症などが併発している状態の「メタボリック症候群」は5.4％、内臓肥満などその予備軍は25％におよびます。糖代謝の異常は40％にのぼり、特に糖尿病の傾向が強いことが浮き彫りになってきました。都市部の傾向が赤池町でも確実に当てはまっています。がんも生活習慣病もかかりはじめはほとんど自覚症状が無いのが特徴。しかし、ひとたび発症すると徐々にその身体をむしばみ、やがては死に至らしめる恐ろしい病気です。

「遅く発見していいがんは一つもない。がん検診は受けて損はありません。毎年受けていれば、万が一見つかったとしても比較的初期なわけですから、治る可能性は高い。勇気を出して、ぜひ健診を受けてください」。

詫摩所長は、大病院とコスモス診療所の病診連携も年々強化しています。

年に一回健診を受けるかどうかによって、命が助かるか、手遅れになってしまうかが決まります。二つと無い大切な命です。自分のために、家族のために…　受けてください、健診。



【たくま・しゅうぞう】総合保健施設コスモス施設長、コスモス診療所所長。平成４年から赤池町立病院院長として地域密着型の医療を展開、財政再建に取り組んだ。現在は健康長寿の町づくりを目指し、生活習慣病の解消に全力を挙げている。

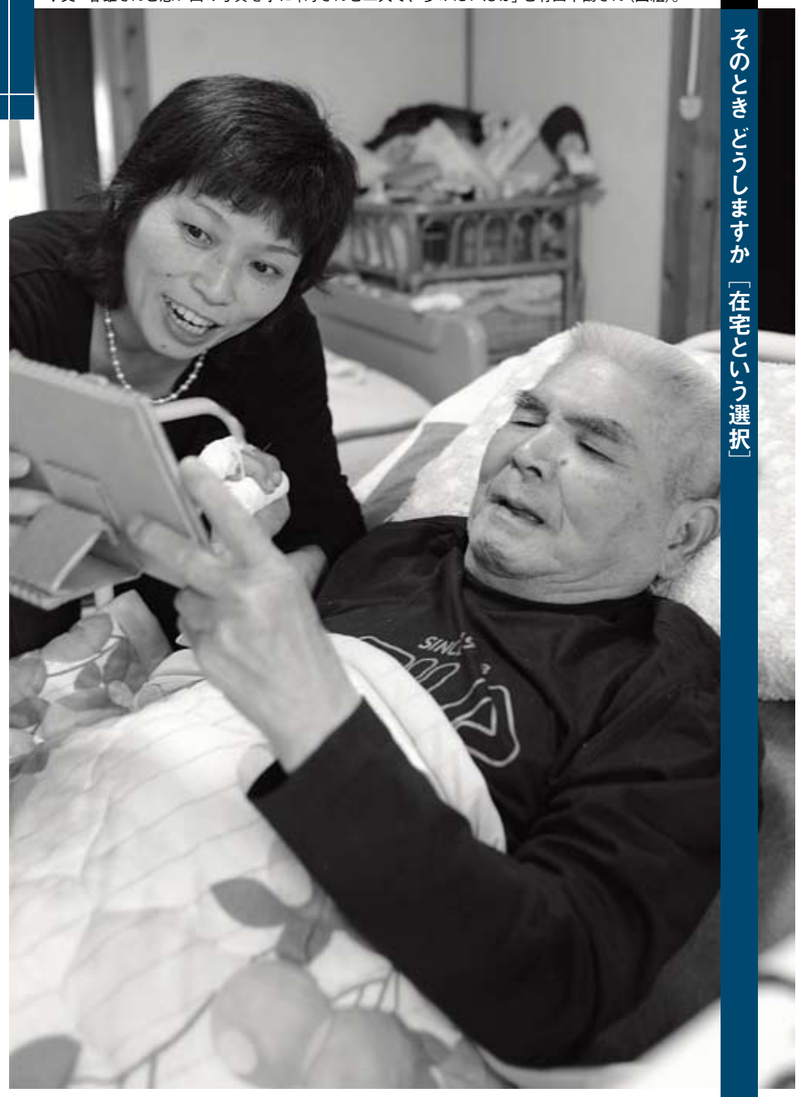
第二部　そのとき どうしますか［在宅という選択］

クローズアップ

要介護５の両親を在宅で介護する

有田 千鶴（ありた ちづる）さん

↓父・春雄さんと思い出の写真を手に「母さんと二人で、夢みたいだね」と有田千鶴さん（西組）。



母さんと20年ぶりの青春だね。

「父さん、いい顔してるよ」。父は脳内出血の後遺症、母は重度の認知症、要介護5の両親を介護する有田千鶴さん(46)。父・春雄さんを20年前から、母・千代女さんを10年前から自宅で介護し、親子3人の生活を続けてきました。父も母も外に出ることといえば、病院に救急車で運ばれるときだけ。春雄さんはいつも窓から外を眺め、並んだベッドで動くことのない妻の横顔を見つめていました…。「施設に行ったら二度と帰れない」と言う父をなだめ、今年4月に町が開設したデイケアセンター福智を利用。重度の要介護者も受け入れ可能なこの施設で、20年ぶりに夫婦二人の外出がかないました。写真の中で千代女さんを横にほほ笑む春雄さん…。ずっとずっと大切にしたい、一枚の写真です。

←フレームは「デイケアセンター福智」の利用者のみなさんによる手作りのプレゼントです。

【有田千鶴さんの宝物】写真
My treasure "Photograph"

だれもが確実に公平に老いていきます。
介護は近い将来いずれだれもが直面する課題です。
もし、あなたが倒れたなら、そのときどうしますか。
「住み慣れた自宅でいつまでも暮らせる」
「家族以外の手があたたかく支えてくれる」
そんな選択が身近にあったら、すごく安心できると思うのです。
今年、この小さな町に「在宅で介護する」公的環境が整いました。
いつでも、どこでも、いつまでも…
この町には「やさしく支える手」がすぐそばにあります。

【要介護とは】介護保険サービスが受けられる状態かを判定し、認定された介護の必要度合い。現在は、要支援、要介護１～５までの６段階があり、要介護５が最重度にあたる。

愛情返しの毎日

在宅介護は年中無休、自分一人だけでやろうと気負ってはいけません。

［在宅介護］クローズアップ

有田 千鶴さん

←「今が充実してるから、昔の苦労は忘れました」と両親の手を引き寄せる有田千鶴さん（中央）。母・千代女さん（83）は意思の疎通ができないままだが、父・春雄さん（84）はデイケアを利用し始めてから身体機能が向上。片言から単語を並べて話すようになり、手づかみの食事はスプーンを使えるまでになった。訪問介護、訪問看護、デイケアのほか、訪問入浴、訪問診療などを組み合わせ、在宅での介護生活を送っている。

心すり減らした母の認知症

「今晩が山です」と医師は言った。昭和59年の秋、父・春雄さん（当時63）が突然、脳内出血で倒れた。一命は取り留めたが、重い後遺症が残った。有田千鶴さんの現在まで、21年にわたる在宅介護の生活は、25歳のときに前触れもなく始まった。

その日から千鶴さんは、父の通院や身の回りの世話などを献身的に行った。それに反し、母・千代女さんは夫の介護から逃避するようになり、看護師である娘への依存心を強めていった。

宮田町の炭坑で働いた父、ぜんそくと高血圧の持病があり55歳で仕事を離れた。選炭場で働いていた母、体の弱い父をカバーするように、いつもしゃんとしていた。「緊張の糸が切れて、母に疲れが出たのかも知れない」と千鶴さんは思った。

昭和61年、父の介護に専念するため、千鶴さんは勤めていた北九州市内の病院を辞めた。母が「認知症かな」と感じ始めたのはこのころから。感情の起伏が激しくなった。父の体の機能低下と母の認知症の悪化、この二つが同時進行していった。

平成元年、家からほど近い施設に看護師として再就職した千鶴さん。働きながらの父の介護はハードだった。しかし、それ以上に母の認知症に神経をすり減らした。昼夜を問わず徘徊する母。すべての施錠を徹底し、母の手が届かないところにも鍵を付けた。平成4年、頸椎の手術を期に、母は自分の便を丸めたり壁に塗ったりする行為、いわゆる「便こね」をするようになる。千鶴さんが帰宅して真っ先にすることは、ドアを閉めて家の中に母の便がないか「においをかぐこと」だった。そのうち母は物を頻繁に隠すようになり、財布の中はお札の代わりにティッシュペーパーが入っていたこともあった。洗剤を飲み、救急車で運ばれたこともある。認知症は外見ではわからないため、周囲の理解を得るのが難しかった。

↑自宅では妻と向き合えない春雄さん、デイケアセンター福智にある高性能車いすで、千代女さんの手を握ることが可能になった。

「頼むから家で」ふっきれた父の言葉

寝たきりの父と認知症の母、働きながらの両親の介護はとてもハードだった。在宅介護で特に大変なのが入浴。千鶴さんは一人で春雄さんをベッドから下ろし、毛布にのせ、風呂場まで引いて運んだ。母の拒絶も激しかった。二人の身の回りの世話、生きることの最小限度の介護がやっとの生活だった。千鶴さんは体力的に限界を感じていた。

平成10年、そんな千鶴さんに転機が訪れる。自宅にスロープを取り付けるため役場に相談、深刻な現状を把握した保健師や福祉担当者から訪問介護の利用を強く勧められた。しかし、春雄さんは娘の介護しか受け入れず、千鶴さんもまた「自分の代わりはいない」と抵抗があった。サービスを受けるべきか悩むなかで、千鶴さんは、春雄さんに母の施設入所の話を持ちかけた。

「父から『頼むから家で』と強く言われました。『自分もここにいたいし、母さんもここでみてくれ』と。父の涙ながらの一言でふっきれました」。

千鶴さんは父の意志を最大限尊重することに決めた。21年間、在宅での介護を続けたなかで弱音を吐いたのは、後にも先にもそのとき限りだった。

「訪問介護、訪問看護、往診などが連携した早め早めの対応をしていただいて、町ぐるみの協力に心から感謝しています」。千鶴さんはサービスや制度を知らないことは、すごくマイナスだと感じ、平成11年にケアマネジャーの資格を取った。

平成12年4月、介護保険制度がスタートし、千鶴さんもやっと自分の時間が持てるようになった。その年の9月に母は腰椎の圧迫骨折で寝たきりになってしまったが、徘徊や介護拒否の心配はなくなった。そして今年4月、町立の総合保健施設が誕生。重度の要介護状態の人も受け入れるデイケアセンター福智を利用した。心にバリアーを張り、最初は嫌がっていた春雄さんだったが、外に出て、人とのふれあいを通じ、ほほ笑むだけの表情から声を出して笑うように変わっていった。

「父の元気の源はデイケア、遅かりし青春を取り戻しているような感じです」と千鶴さん。

そんなある日「お父さん幸せ?」と父に聞いた。「おお、幸せ」と春雄さんは目を見て、大きな声ではっきりと言った。父の「幸せ」という言葉、「家にいたい」という気持ちが何よりもうれしかった。

「在宅介護は年中無休ですが、サービスを利用し、生活のメリハリができました。人に任せられることはお願いし、自分しかできないことをやる。一人でやろうと気負ってはいけません。わたしの自慢は、介護の愚痴を言ったことがないこと。介護する方もされる方も不幸ではいけないし、わたしが幸せじゃないと親も幸せになれないから…」。

両親から惜しみない愛情をもらったという千鶴さん。「わたしは両親に愛情を返していくだけ、苦じゃありません」。幸せそうに笑った。

父の「幸せ」という答え、「家にいたい」という気持ちが何よりもうれしかった。

「介護する側もされる側も、お互いが幸せでなければ 幸福はあり得ません」

在宅介護最前線

［そばにある安心でありたい］

サポートが必要なときこそ、環境を変えずに、自宅で、穏やかに介護する。

温かくさしのべられる手や見守るまなざしが、すぐそばでみなさんの安心を支えます。

独り暮らしのお年寄りに安心を届けるのも訪問看護の役目。
看護師のやさしい一言に大きな笑顔がこぼれた。

↓在宅介護でまず必要となるホームヘルプサービス。過度の利用は身体機能の低下につながるため、適度に利用することがポイント。家族にも正しい介助動作をアドバイスする。

「在宅か施設か」介護の選択

「もし介護を受けるようになったら家族に迷惑はかけん。施設に入るばい」。冗談まがいの言葉も元気なときだからこそ言えるもの。いざその立場になると言えないものです。また「在宅」という言葉を聞けば、家族は自分の生活すべてを、あるいは大部分を介護のために費やさなくてはいけないと思いがち。だから在宅介護に踏み切れない人はたくさんいます。

「今までの生活をできるだけ崩さないように介護する。それを手伝う人はいる」。そういう保障があったら、介護する側もされる側も気持ちがずっと楽になります。みる人の気持ちが和らぐと、みられる人も安心して自宅にいることができるのです。

24時間体制のサポートを実現

「だれもが住み慣れたわが家で、いつまでも暮らせるように」という目標を掲げ、総合保健施設コスモスでは、診療所、保健課、社会福祉協議会が連携し、住民の健康を支えるシステムを整えました。

在宅介護に当たっています。

療養については医師の往診や訪問看護。身体機能を向上させたいときは送迎付のデイケアや訪問リハビリテーション。日常生活では身の回りの世話をする訪問介護や訪問入浴など、必要に応じた介護サービスを行うセクションが一つの施設に集まっています。特に訪問看護では、ターミナル看護（終末期の看護）も24時間体制で行い、最後まで自分らしく生きられるよう、サポートできるシステムを整えました。

↑「重度でも身体機能を引き出せます」とデイケア福智のビスタ由美子作業療法士。

↑「利用者が何を求めているかを察する感覚が必要」と訪問介護の亀谷由美子主任。

↑「本人や家族の精神的な負担を取り除くことが大切」と訪問看護の立花寿子主任。

↓在宅介護では住宅改善も重要、最も多い5㎝以下の段差による転倒骨折を防ぐ。

↓介護で最も負担が多い入浴、町では訪問入浴やデイケアの特浴が利用できる。

↓介護保険制度では、手すり取り付けの助成や介護用具のレンタルもある。

都会の介護施設では、百人以上の希望者が待つ状態もめずらしくありません。在宅介護の感覚は都会と地方では少し異なるようです。隣り近所と交流の少ない都会と違って、赤池だったら「住み慣れた自宅が一番」って思う人が多いかも知れません。見慣れた山々や町並み、窓から見える庭、声を掛けてくれる近所の人たち…。小さな町だからこそ安心できることはたくさんあります。

環境が変わると精神状態が不安定になり、ストレスで症状が悪化することはよくあることです。特に体が弱ると、ほんの少しの環境の変化が体にも心にも大きく作用します。そんな時だからこそ、環境を変えずに穏やかに介護する。そして医師、看護師、理学療法士、ホームヘルパーなど、専門家の手がさりげなく入るというライフスタイルを理想とし、町の在宅介護は日夜、絶えず動いています。

↑寝たきりの人でも十分に対応できるデイケアセンター福智、車いすを安定させる特別車両で送迎する。

住み慣れたこの家で最後まで自分らしく

町の介護現場を20年みてきた
中野雅浩氏に聞く

Home health care

在宅という選択があります。

↓11年前、孤独死が連続したのをきっかけに発足したサポーター会議。毎月開催し11月で136回目を数える。介護の最新情報研究や情報交換を行い、総合保健施設内職員、県職員、民間施設のスタッフで構成している。

「仕事を辞めて親の介護をする。以前はそれが当たり前の時代でした」。町の介護福祉現場に20年間かかわってきた中野雅浩さん。家族が周囲から隠れるように介護をし、それができない人は施設に入るという姿を間近で見てきました。やがて、共働き世帯の増加や核家族化が進むなど、介護を取り囲む環境も次第に変わってきました。平成12年4月からの介護保険制度は、そうした社会状況に対応するため「介護の社会化」を進める目的でスタートしたものです。

「現在、介護認定者は田川市郡で1万2千人、赤池町で730人います。社会福祉協議会では制度開始前からホームヘルプサービスを行っていましたが、掃除や買い物などが主で、身体介護が必要なケースはごくわずかでした。それが『今までその人たちはどうしていたの?』と言うくらい掘り起こしができました。この点では介護保険の意義は大きいと思います」。中野さんは介護保険制度によって医療と福祉の間に埋もれていた介護が、やっと表舞台に出たと評価します。

介護保険を利用するには要介護の認定を受けた後、作成したケアプランに基づいてサービスを受けます。その場合、本人が何ができて何ができないか、介護の負担や家族の意向をケアマネジャーが聞き取り、生活状態を見ながらプランを作っていきます。

「『家にいたい』『施設に入れたい』と本人と家族の意見が食い違うこともあります。もちろん調整しますが、わたしは本人の希望を最優先したいと思っています」と中野さん。住み慣れた家で暮らしたいという利用者の意思を尊重し、精神的負担がない中で、少しでも本人の身体機能が向上する計画づくりを心がけています。

「赤池町は在宅介護の施設環境が十分に整っています。各機能が総合保健施設に集まっていることで課題も共有でき、連携して問題の解決に当たることができます。利用者が遠慮することなく、家族が迷わずに『在宅』という選択ができる町にしたいですね」。

最後まで自分らしく生きるために…この町には「在宅」という選択が身近にあります。

【なかの・まさひろ】赤池町社会福祉協議会係長。平成10年からケアマネジャー（介護支援専門員）としてさまざまなケースのケアプランを作成。昭和61年から福祉現場で活動し、介護問題に携わってきた。

クローズアップ

健康長寿日本一112歳の最高齢者
皆川（みながわ） ヨ子（よね）さん

第三部 いつまでも健やかに［めざすはヨ子さん］

最後に咲いた梨の花だよ。

↓敬老の日を前にした9月16日、入所する町内の特別養護老人ホーム「慶寿園」でのお祝い会で。

「よう咲いとる」。112歳の皆川ヨ子さんが、梨（なし）の花の押し絵をなつかしそうにながめました。長寿日本一の敬老お祝い会で「息子夫婦の梨園を手伝っていた思い出に」と孫の安永昭俊さんが心を込めたプレゼント。ヨ子さんは結婚後間もなく夫を亡くし、野菜や花を作りながら行商して5人の子どもを育てました。梨園を閉じた今年、最後に咲いた梨の花…　土と風のにおいが記憶とともに届きました。

日本一の健康長寿が
この町にいます。
心と体をはぐくむ風土が
この町にあります。
大きな安心を届ける施設が
この町にできました。

いつまでも健やかに生きたい。
だれもが願うこの思いは
赤池町の大きなテーマです。
病気にならない、
寝たきりにならない、
「治療より予防」を合い言葉に
全国に誇れる長寿の町をつくる。
保健・医療・福祉の連携の輪で
「全員健康長寿」を目指します。
あこがれは皆川ヨ子さんです。

【皆川ヨ子さんの宝物】My treasure "Raised picture" 押し絵

「早うご浄土にコトッと行かな」といつも笑顔、口ぐせは「ありがと、サンキュー」

［健康長寿］クローズアップ

心にいつもありがとう

皆川ヨ子さん

明治・大正・昭和・平成…　赤池の風土の中で、時代とともに生きてきた112年

健康長寿日本一の秘けつは食事と睡眠

ストレスをためない、規則正しい生活。

←温かいタオルで顔をふき、お気に入りのクシでていねいに髪をとかすのが毎朝の日課。鏡を見ながら自分で身だしなみを整え、ヨ子さんの一日がスタートする。年が明けてすぐ、来年の1月4日に113歳の誕生日を迎える。

明治から平成まで 赤池で112年

「皆川ヨ子さんが日本一の長寿に！」町中が沸いた知らせは今年の4月5日、桜前線に乗ってやってきた。翌日の記者会見で「日本一になったよ。みんなおめでとうって言いよるよ」と耳元で声を掛けられると、ヨ子さんは「そげんなるかね、ありがたいこと」と手を合わせた。

皆川ヨ子さんは、明治26年1月4日に4人姉妹の長女として赤池町上野（当時上野村）に生まれた。農業をしながら女手一つで5人の子どもを育て、明治・大正・昭和と激動の時代を駆け抜けてきた。ヨ子さんの顔のシワは、112年間この町の風土のなかで刻まれたものだ。平成2年に98歳で赤池町の最高齢者になり、敬老の日が近づくと必ず町の広報紙をヨ子さんが飾った。孫7人、ひ孫12人、玄孫（やしゃご）2人に恵まれ「20歳若く見える、笑顔がステキなおばあちゃん」と町の長寿の象徴としてのイメージが定着していった。3年前に上野の「慶寿園」に入所したヨ子さんは、骨折を避けるため車いすで生活しているが、耳が遠いほかは、今でも新聞を読んだり、時には冗談を言ったりするなど、健康状態も良好。慶寿園の立花シゲ子施設長は「入所者のみなさんもヨ子さんを心から尊敬し、慕っています。『ヨ子さんのような年の取り方をしたいな』って、会うたびに思うんです」と目を細める。

↑4月6日、満開の桜の下で行われた記者会見。入所する慶寿園の玄関前で、報道陣に笑顔で応える皆川ヨ子さん。右端は孫の平山美智子さん。

長寿日本一の秘けつを探る

はたして、皆川ヨ子さんの長寿の秘けつは何だろうか。その質問にはまず「きちんとした食事と十分な睡眠」が挙げられる。ヨ子さんは現在、夜8時に就寝し、昼寝もして、1日に14～15時間の睡眠をとっている。少量だが3度の食事をしっかりとり、好き嫌いもなく、食事も自分の手で口に運ぶ。若いころから上野の自然の中で体を動かして働き、赤池の農産物をバランスよく食べてきた。きれい好きなので身の回りはいつも清潔。106歳まで自宅で身の回りのことや庭仕事をし、今で言うスローライフを楽しんだ。持ち前の体の丈夫さもあるだろうが、皆川ヨ子さんの健康は、食事や睡眠も含めた規則正しい生活がベースになって支えられている。今でも週1回の診察を受け、年1回の健診で健康チェックを欠かさない。

そしてもう一つ重要な要素が皆川ヨ子さんの「気」の部分。性格はくよくよせず、おおらかで明るい。「ありがと、サンキュー」が口ぐせで、感謝の気持ちをいつも忘れない。ストレスをためない穏やかな心が、ヨ子さんの活力を支えている。週に何度も足を運ぶ孫の平山美智子さんは「おばあちゃんが人の悪口を言っているのを聞いたことがありません。自分に厳しく人には優しい、わたしが一番尊敬する人です」と日本一の祖母を見つめた。

洋服の色は薄いピンクやブルーなどやさしい色を好むおしゃれなヨ子さん。鏡を見ることが多く、ヘアスタイルも念入りに自分で整える。テレビでは時代劇と相撲、お酒は日本酒がお好きだったとか。週一回、慶寿園で行われる音楽療法では、三味線で培ったリズム感を披露する。趣味を持ち、毎日を楽しむ前向きな姿勢も長寿の秘けつの一つなのだろう。体調がいい時は車いすで施設内の散歩を楽しみ、特定の薬も飲んでいない。

また、生きていくうえで環境はとても大切。ヨ子さんの場合、入所する慶寿園は、自宅から近い福智山のふもとにある。自然豊かな環境もおいしい空気も変わらない。今年、ヨ子さんは発熱してコスモス診療所で入院療養したが、2度ともマスコミに要望された会見の後だった。たくさんのマイクとカメラが向けられ、ヨ子さんは集まった報道陣に「たいそうな人がおるね」と驚いた様子だった。一日のリズムがくずれ、日ごろないストレスがかかったことが体調を崩す原因になった。主治医の出口智弘副所長は「ヨ子さんは自発語もでますし、食事も自分で口に運びます。食べられる間は免疫力も維持できますから、大きな病気が出なければ、まだまだ十分長生きできると思います」と療養後の状態を説明する。

日本一の輝く笑顔で

赤池町の最高齢者として住民から敬われ慕われてきた皆川ヨ子さん、6月には名誉町民となった。保健・医療・福祉のまちづくりを進める赤池町にとって、ヨ子さんは健康長寿のシンボル的な存在であり、町の誇り。わたしたちは「いつまでも健やかに生きたい」という願いをヨ子さんに照らし合わせ、ヨ子さんもまたその笑顔でわたしたちに生きる喜びと希望を与えてくれる。

「120歳まで生きてくださいね」と言う周囲に「あたしゃ2百歳になるきね」と冗談をとばした皆川ヨ子さん。表紙の写真を撮影した日もいつもどおり、日本一の笑顔を見せてくれた。

健康長寿の町に

［コスモスが目指すプライマリケア］

生活習慣病ゼロを目標にした「予防」と、保健・医療・福祉の連携で健康長寿の町をつくります。

病院のベッドを各世帯のベッドに置き換えた「在宅」がバックアップし、すぐそばで支えていきます。

↑コスモスから眺める福智山は絶景。健康長寿をはぐくむ土壌がこの町にはある。

いつでも、だれでも利用できる。
すぐそばにあるコンビニ感覚の施設を目指して——

↑午後の外来診療にあたる詫摩所長。以前の町立病院では午前中が外来、午後以降は手術や入院医療の対応に医師が追われていた。コスモス診療所では午後も外来に対応できるようになり、医師が診察する健診とあわせて、より地域に密着した医療が可能になった。従来の内科・外科・リハビリテーション科・整形外科に加え、診療所オープンの時から要望の高かった眼科（当面週１回）を追加。早い段階から病気をくい止め、健康長寿のまちづくりを目指す。

↓19 床ある入院病床のうち、一般病床 7、長期療養型の病床を 12 設置し、在宅療養までの期間を診療所でサポート。

↑オープン当初は待合い時間も長く、混雑していた待合室もシステムの効率化でスピーディーに。

↑10 月から総合案内所を設置。看護師が患者の介助や声がけをする。急診の判断もこの段階で行う。

ヨ子さんのように健やかに

①適正な睡眠時間をとる ②適正体重を維持する ③朝食を毎日食べる ④喫煙をしない ⑤過度の飲酒をしない ⑥定期的に運動する ⑦間食をしない ⑧ストレスをためない。日本最高齢者の皆川ヨ子さんは、これら生活習慣病予防のチェック項目を長年にわたりクリアしています。このことからも日本一の健康長寿、ヨ子さんに近づくには、まず寝たきりの要因である生活習慣病を遠ざけることが重要だと言えるでしょう。

総合保健施設コスモスは、今年4月「予防」と「在宅」を合い言葉にオープンしました。現在、疾病予防、介護予防のため、生活習慣病の解消を第一に取り組んでいます。以前の町立病院では外来と入院の二足のわらじをはいた状態で「入院医療」が主体でした。コスモス診療所になってベッド数は減りましたが、60床から19床になった現在は在宅医療の駆け込みベッドとしての役割を果たしています。診療所は外来を主体に、従来の病院のベッドを各世帯のベッドに置きかえた「居宅医療」を展開。詫摩所長は「午前午後、だれもが訪れることができ、時間外も通じて問題を解決していける施設。受診しやすいコンビニ感覚の施設を目指したい」と総合保健施設の当初のテーマである「プライマリ・ケア」の考え方を施設運営の中心に位置づけています。

「プライマリ・ケア」とは、予防から初期治療までをカバーし、保健・医療・福祉が連携するなかで、身近にいつでも療養できる体制が整った健康を支えるサービスのこと。総合保健施設コスモスは、診断・治療はもちろんのこと、疾病・介護予防から健康増進、リハビリテーション、療養指導に至るまで、それぞれの状況に応じた包括的なケアを継続的に進めています。

赤池町の目標は「全国に誇れる健康長寿の町」。病気になりにくい健康づくり、住み慣れた自宅で安心して療養できる環境を充実させ、この町に住む全員が皆川ヨ子さんのようにいつまでも健やかに暮らせるよう、すぐそばで支えていきます。

支えてくれる手がそばにあるって 心強いね。
みんな元気で健康だったら もっと もっとステキだね。
このまちでずっと生きていけるって 何だかホッとするよね。

自分だけ長生きしても意味がない。周りが認め、みんなが幸せでなければ…

11 月 15 日に総合保健施設で行われた上野小４年生の総合的学習「みんなしあわせ赤池町」。21 人の児童が、セットを使った高齢者体験や車いす体験を通して「人を助け、助けられる意味」を考え、地域社会の一員として共生することの大切さを学んだ。町では、保健・医療・福祉の連携だけにとどまらず、学校教育・生涯学習・生涯スポーツの分野まで連携の輪を広げ、だれもがいきいきと安心して暮らせるまちづくり、互いの健康を喜び助け合う人づくりを進めている。

LIFE

治療から養命の時代へ

「イヤなことは考えず、気楽に生きた方がいい」。健康な状態で、病気になることや寝たきりになることを考える人は少ないでしょう。いずれ老いや死は、だれにでも必ずおとずれるのに、わたしたちは意識的にそういう話を避けているのかも知れません…。しかし、もはや自分の健康を人任せにする時代は終わりました。健康づくりは「治療の時代」から「予防の時代」へと移り変わり、医療もまた「病気を診る医療」から生活習慣も含めた「人を診る医療」へと変わりつつあります。病気になって病院に行くのは、火事になって消火器を買いに走るようなもの。大切なのは治療より予防、養生して「命を養う」ことです。

空いた日を見つけてはウオーキングで健康管理をしているという浦田弘二町長は、健康長寿のまちづくりについて、次のように語ります。

「長寿の町をつくるには、未病（みびょう）の取り組みが欠かせません。体と心は結びついていますから肉体面のみならず精神面の充実が求められます。健康と生きがいづくりは、自分の好きなことを楽しむことが一番。わたしは、みなさんのニーズを把握しながら、やりたいこと、打ち込める選択肢を提案していきたい。お金をかけなくても地域や学校など既存の環境を生かせば、相乗効果を見込める取り組みは可能です。また、自分の健康は自分で守る『セルフケア』の大切さを子どものころから意識づけ、相手の立場になって手をさしのべられる介護への理解や高齢者を敬うまなざしをはぐくみたい」と、高齢化社会が進むなかで、目先のことではなく、未来を見すえた取り組みが必要だとしています。

「自分の体は自分が一番よく知っている」というふうに、自らが自分の体のゼネラルドクターとして状態を知り、生活習慣病を予防することが、健康づくりに何より有効です。健康な体で楽しむ生きがいが、みずみずしい心を養い、介護予防につながります。そして「もし病気になったときは適切な医療が受けられ、住み慣れた家での療養を支えてくれる施設がすぐそばにある」という安心が、健康でステキな毎日を後押しします。総合保健施設コスモスは、みなさんの健康と命と生活を支える身近な施設として、大きな安心を届け続けていきます。

赤池町総合保健施設コスモス

12月4日から13日の10日間は赤池町人権旬間です。戦後60年をむかえた今年「戦争と人権」について考えてみましょう。

戦争に人権はない。いま語り継ぐ平和。

今なお世界では、戦争によって多くの尊い命が失われています。戦争は人間の最も大切な「生存の権利」すらも奪う最大の人権侵害。わたしたちは二度と同じ過ちを繰り返さないよう、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいかなければなりません。21世紀が戦争のない平和の世紀となるよう、戦地にいた二人の証言をもとに、人権の大切さを考えます。

「お国のために」と出征する兵士たち（昭和10年ごろ）

「バババッと音がしたらすぐそばの4人が倒れて、声も出さずに死にました。どこに敵がいるか、どこから弾が飛んでくるか分からんのです。そこは狂気の世界でした」。

昭和18年、杉田守さんが所属する部隊は、門司港からシンガポールへと向かいました。着くまでに30隻の半数が魚雷で沈没。そこからビルマ（現ミャンマー）を経て、中国の雲南省近くまで進軍し、大きな犠牲を出しました。状況は過酷を極め、ついに撤退命令が下ります。杉田さんは工兵として敵に包囲された部隊の退路をつくる役目。命からがら退却するなか、さらに味方だったはずのビルマ軍が反乱し、前も後ろも敵に囲まれました。待ち伏せによるゲリラ戦で地獄を見たのです。朝も夜も行軍し、飢えと病気に倒れた兵の死体が次々と転がっていきました。

「負傷した兵が自決しようとして『手りゅう弾をくれー』と泣き叫ぶんです。病気で倒れた者は撤退の速度が遅くなるので、置き去りにされていました。次々に劇薬を注射される光景を見て『ここは人間の世界ではない』と絶望しましたね。親しかった同郷の戦友も腕の傷口からマラリアに感染し、骨と皮の状態になって死にました。彼の姿を見て涙が止まらんかったです」。杉田さんたちは川に浮かんだ日本兵の死体をよけながらイカダで下り、撤退しました。

杉田　守さん

昭和18年、久留米西部52部隊に入隊。敵に包囲されたビルマから撤退する突破作戦を経験し、無事生き残った。徳人原在住、81歳。

昭和16年に入隊した清原春政さん。翌年中国に進軍し、漢陽を経て桂林に迫りました。「負けている状況で『反転作戦』と称した無謀な戦闘でした。わたしは道をふさぐ鹿砦（ろくさい）と呼ばれる砦（とりで）の破壊を命じられ、夜襲で部下の5人と一つめを攻略、二つめにさしかかったとき、死角から弾が撃ち込まれました。5人とも倒れ、うち2人は戦死。負傷した部下を抱きかかえたとき、機関銃で右足を撃たれました」。清原さんは右足の指を負傷、はうようにして戻り、命を拾いました。「人が人を殺し、命を取り合う戦地は、みな正気ではなかった」と思い起こします。

「命令に背けば撃ち殺す。上官が『弾は前ばかりじゃないぞ』と言っていました。戦地では矛盾ばかりで、その矛盾が通るのです。戦闘では弾の下をくぐって弾の方向に向かって進みます。とにかく前へ、前進あるのみです。あのとき負傷していなかったら、恐らくわたしは前線で息絶えているでしょう。わたしが生きているのは運がいいだけです」と清原さんは戦争の極限の状態を説明します。

「上官の命令は絶対。逆らえば半殺しです。人間の尊厳なんてあり得ませんでした。あんな恐ろしい戦争は絶対にしちゃならん」と杉田さん。「『万歳』ではなく、母や妻の名を叫びながら死んでいった戦友の声が忘れられない」と唇をかみしめます。

「敵も味方も、兵も国民もただ苦しむだけ、戦争をしていいことなんて一つもない。若い人たちに平和への感謝の気持ちを持ってほしい」と二人は口をそろえます。

戦争は人間にとって人権を侵す最大の暴力です。互いに相手を認め、人権を尊重しあえば争いはなくなるはず。わたしたちは、命と人権、平和の尊さをいつまでも忘れてはなりません。

←10月25日、戦没者の名を刻む忠魂碑前で行われた遺族会の戦没者追悼式。63人が出席し、献花した。

清原春政さん

昭和16年、都城部隊に入隊。中国での反転作戦で部下を助けた時、死角から機関銃で右足の指を撃たれ負傷した。南町在住、85歳。

赤池町人権旬間 12月4日(日)～12月13日(火)

人権を語る夕べ

日時／12月8日(木) 午後7時開場　午後7時30分開会
場所／赤池町同和対策中央研修所
テーマ／「私の出会った日本のかたち、日本のこころ」
講師／和都村企画代表 ロバート ワトソン氏（日田市在住）

特設人権相談

日時／12月7日(水) 午前10時30分から午後3時まで
場所／コスモス保健福祉センター
相談担当者／人権擁護委員・行政相談委員

人権ふれあいウォーキング大会・ふれあい体操会

日時／12月11日(日)午前9時受付
　　午前9時30分開会　午前10時スタート
集合場所／ワィ・ワィ・ワ広場　上野小学校

小中学生の人権ポスター掲示

期間／12月4日(日)から12月13日(火)まで
場所／中央研修所・役場・町民会館・総合保健施設コスモス・赤池郵便局・JAたがわ市場出張所・JAたがわ赤池支所

今年、赤池の子どもたちが初めて韓国を訪問しました。

泗川市で一年ぶり再会

◉ 子どもたちの日韓交流 2005

3年前、上野焼400年祭をきっかけに始まった日韓交流。
昨年は泗川市から来町し、今年は赤池の小学6年生25人が泗川市を訪問しました。
海を越えて友情を温め、初めて異文化に触れた貴重な体験をリポートします。

韓国泗川市は上野焼開祖・尊楷ゆかりの地。文禄・慶長の役を機に、ここから海を越えて渡来した尊楷は1602年、豊前藩主・細川忠興に従って上野の地に窯を開きました。今から4百年以上も前のことです。

韓国泗川市との日韓交流は3年前の上野焼4百年祭がきっかけ。昨年は泗川市の三成初等学校から27人が来町。そして今年、上野・市場両小の6年生25人による泗川市初訪問が実現しました。10月28日から30日までの2泊3日、異文化に触れ、1年ぶりの友情を温めました。

韓国まではおよそ3時間、福岡から高速船に乗って釜山港へ向かいます。パスポートも韓国の通貨ウォンも初めて手にする子どもたち、もちろん出国も入国も初めての体験です。釜山からは高速バスで西へ、およそ2時間かけて泗川市に到着しました。

たどり着いた三成初等学校では手厚い歓迎が待っていました。友達と名前を呼び合い、手を握り合って再会を喜びます。1年ぶりの再会とあって、互いに背も高くなり、驚きの声も上がっていました。訪問前、赤池の子どもたちは、昨年に続いて事前研修でハングルを学習。韓国の友達も日本語を覚えていてくれて、昨年に比べ、一段とコミュニケーションがとれるようになっていました。

赤池の子からは「校庭が広い、校舎がカラフル、日本の景色に似ている」という感想が多かったようです。そこから4百年祭を機に開かれた九龍窯でやきもの作りに挑戦。そのまま窯元に宿泊し、窯の熱を利用した床下暖房のオンドルも体験しました。

2日目は、三成初等学校で韓国式の蹴鞠（けまり）や8百人以上が遊ぶ校庭でサッカーを楽しみ、親交を深めました。古窯跡・航空資料館・恐竜博物館も見学、海辺ではすばらしい眺めと恐竜の足跡に出会いました。夜はホテルでレセプションとプレゼント交換、韓国の友達とはここでお別れです。1年前は泣いたけど、今年はグッと涙をこらえる子が多く「また会おうね」と手を振る子どもたちの姿に、1年間の成長を感じました。

3日目は普州城と歴史博物館で文化を学び、韓国の風土を体にたくさん吸収して、帰路につきました。

キムチの辛さも海に沈む夕日の輝きも大切な思い出、でも言葉じゃなく心で通じ合った友情は、これから先もずっと子どもたちの胸に生き続けることでしょう。

三千浦ホテルで行われたレセプション、浦田町長が出席し、歓迎する泗川市に感謝の意を表した。

Japan-Korea Exchange
主催：赤池町青少年育成町民会議・赤池町教育委員会

明るい笑顔で歓迎してくれた三成初等学校の子どもたち、みんな協調性が高く礼儀正しかった。

訪問前に計4回開いた事前研修会、金智淑さんを講師に迎え、ハングルや韓国の文化を学んだ。

およそ400百年前に尊楷もこの海を眺めたのだろうか…　三千浦からの美しい眺めに思わず息をのむ。絶壁のまわりの奇岩には、たくさんの伝説が残っている。

海と島越しに見える南海瑞山の夕焼け、韓国の「9大日の入り」の一つに選ばれた幻想的な風景だ。

海岸沿い4㎞にわたって残っている恐竜の足跡はおよそ7000万年前のものと推定されている。

歓迎ムードに包まれた校庭でふれあう子どもたち。元気いっぱいに遊具遊びやサッカーで交流した。

400年前 尊楷が越えた海

◉上野焼開祖ゆかりの泗川市

【泗川市】文化遺産と観光資源が豊かで、空港、港湾、高速道路など交通網が発達している交通の要衝地。航空宇宙産業と慶南太陽油田があり、先端航空産業と誘致産業が盛ん。海洋と大陸性気候が混ざった温暖な気候で、水産業と農業が活発。人口はおよそ12万人。

同じ日に泗川市で開かれていた「航空宇宙博」を見学、飛行体験や宇宙空間体験を楽しんだ。

韓国の伝統的な遊び「チェギチャギ」、穴が空いた小銭に紙を巻いたものを落とさないように蹴る。

三成初等学校の友達だけでなく、一緒に韓国へ行った仲間とも友情を深めた貴重な3日間になった。

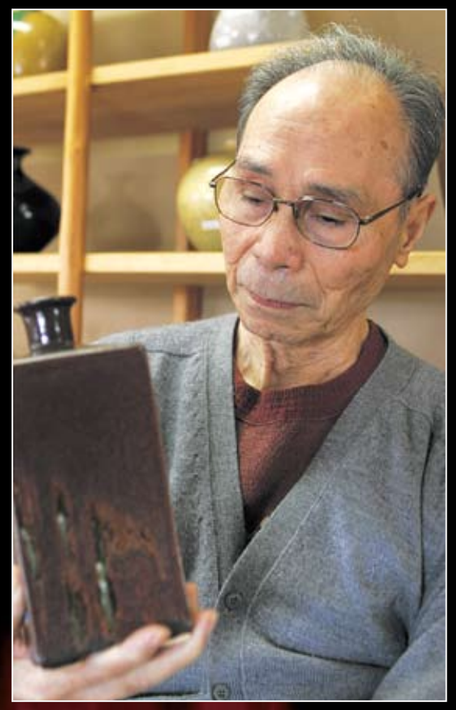
400年祭の交流を機に開かれた「九龍窯」でのやきもの体験、窯元の金南珍さんが手ほどきする。

土と炎に挑み続けて

上野焼の作家としては初となる栄えある受章をはじめ、
九州経済産業局表彰、福岡県表彰を受けた三人のみなさん。
日ごろ陶芸に打ち込む姿を追って、インタビューしました。

瑞宝単光章・日本伝統工芸士会功労者表彰

髙田湖山さん［髙田窯］



↑受章の喜びをかみしめながら、60年の陶芸人生に思いをはせる髙田湖山さん（本名・利明）。手にあるのは鉄釉の窯変花入れ。

←「炎の力が作った」と言う奇跡の茶入れ、金粉をちりばめたような輝きを見せる。

↓細かい玉が浮かび上がり、均一にそろって連なる「虫喰釉」、髙田さんの得意技法。

「こんな勲章がもらえるとは…」目に涙がにじんだ。11月22日、届けられた瑞宝単光章を前に、言葉が見つからなかった。上野焼作家としては初めての受章となった。

陶芸をはじめて60年、9年におよぶ下働きをしながら陶工の技を目で盗み、独学で釉薬づくりに励んだ。未明までろくろを回し、ふがいない自分に涙したこともあった。目指したのは伝統に基づいた自分だけの上野焼。御用窯としての誇りを忘れず、美を凝縮した茶器を求め続けた。薄づくり、多彩な釉薬、繊細で存在感ある造形…　決して妥協しない姿勢が、ゆるぎない技術力となって髙田さんに備わっていった。

「この模様を出せるのは世界で髙田しかいない」と外国の芸術評論家をうならせた「虫喰釉」。繊細で無数の黒い粒が包むように均等に浮かび上がる、大成するまでに30年かかったという髙田さんが得意とする技法だ。故宮博物院賞をはじめとする数々の世界的な賞は、この「虫喰釉」が評価され、髙田さんの受賞につながった。しかもその作品は偶然にできるのではなく、窯の中に置く作品の位置、火の力、温度や湿度といったあらゆる要素を計算しつくし、必然的に完成する。それだけに髙田さんの窯焚きは真剣勝負、炎を見つめる表情はとても厳しい。

「火の色や勢いなど全神経を集中しないと窯焚きは成功しません。ここで失敗したらすべて台無し、火と対話しながら思いを込めて焼成します」と髙田さん。職人としてのすさまじい一念が、だれにもまねできない秀作を生み出していく。

「一生のうちに数度だが、火の神様が降りてくることがある」。髙田さんが宝にする茶入れは、金粉がちりばめられたように、きらきらと輝きを見せた。窯の炎によってやきものの色が変化する「窯変」。地道な努力が作品に息吹を与え、結晶となって表れたこん身の作品だった。11月2日には日本伝統工芸士会功労者表彰も受けた髙田さん。「まだまだ新しいイメージがたくさんあります。頭の中はやりたいことばかり、百歳まで作り続けたい」と燃えるような情熱で意気込みを語った。

九州経済産業局長表彰

青柳一夫さん［青柳不老園］

11月3日に九州経済産業局長表彰を受けた青柳一夫さん。先代の父（故・翠峰氏）に師事し、昭和44年から陶芸活動をはじめた。

「緑青をどう生かすか、この釉薬を極めてみたい」。上野焼協同組合理事長に就任して7年間、現在まで強力なリーダーシップで上野焼を牽引し続ける青柳一夫さん。情熱と手腕で上野焼4百年祭をはじめとする催しや他産地との連携を成功に導いてきた。子どもたちの作陶体験にも積極的に学校まで足を運び指導する。

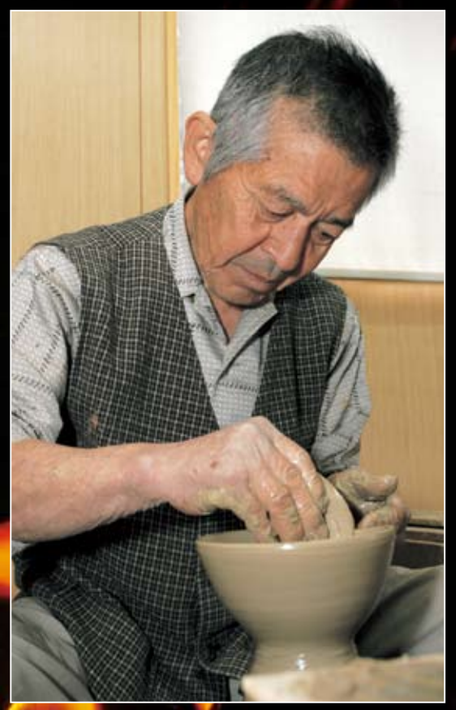
「緑流し」「総緑」などで知られる緑青釉は、上野焼を代表する色彩として有名。しかし、客の知名度と人気は高いが、展覧会などで緑青釉の作品が入選することは極めて少ない。青柳さんは「一般的に『上野焼と言えば緑青』という認識があるのはゆるぎない事実、だからあえて緑青に挑戦する」と言い切る。代表的釉薬がすたれることは上野焼そのものの存在まで影響する。緑青の展開や可能性を探る姿勢には、一人の作家としてだけではなく、理事長としての強い責務を感じずにはいられない。

緑青を柳に見立てた柳文大皿

作家としては緑青、理事長としては「上野焼からヒーローを出したい」と目標を語る青柳さん、上野焼の中央進出も視野に入れている。組合代表者として多忙を極める中、瞬時に作家へシフトする生活を送る。福智山の深緑にも似た緑青が、魔法のようにその手から生み出されていく。

福岡県優秀技能者表彰

髙鶴智山さん［庚申窯］



11月24日に福岡県優秀技能者表彰を受けた髙鶴智山さん（本名・智）。髙鶴窯の初代・城山氏の子で二代目・夏山氏の弟。

「作りたいときに作りたいものをつくる」という髙鶴智山さんの姿勢は、あくまで自然体。肩に力を入れず、勢いがよく、むだな動きがない。しかし、一見おおらかに見える動作も実に繊細。陶土を削って文様を刻む「描き落とし」も熟練した感覚があってこそなせる技だ。先の丸いカンナがためらいなく成形した器に向けられると、ランやツバキなどの草花がみるみるうちに形を表していく。作陶において「特にこだわりはない」と笑う髙鶴さんだが、道具のほとんどが手作り、もしくは改良されている。自分の意図を確実に作品へ反映させるため、手になじむように仕上げられているのだ。

そして、特に髙鶴さんのこだわりを感じたのは陶土。細工物以外は上野の土しか使わない。釉薬との絶妙なバランスで趣を加える化粧土もいくつかの上野産の土をブレンドして作る。また、造形のアイデアも豊富で、「つまようじ立てがついたはし入れ」や「小皿の真ん中に小さな筒を付けた形の一輪挿し」など、ほかのやきもの産地がまねする人気商品も多数考案した。茶陶の枠にとらわれない、美しさと実用性を重視した髙鶴さんの作品は、やさしいまなざしを映すように作り出されている。

繊細な彫りによる鉄釉香炉

Wide My Town Topics

空手道青少年育成25周年記念演武会
一撃で倒す気迫に息をのむ

11月13日に中央研修所で町体協の少年空手部「空友会」の25周年記念演武会が行われました。太鼓の演奏に始まり、尺八や詩吟にあわせた個人型や息ピッタリの団体型など、会員55人による22演目が披露されました。特に実践形式で行う護身術や乱取りは、突きや蹴りの音が聞こえてくるほどの迫力でした。長野秀幸師範は「空手を通して青少年に人を思いやる気持ちを育てていきたい」と300人の観客の前で今後の抱負を語りました。

↓長野秀幸師範が持つ板に向かって気持ちを集中、こん身の力を込めて板を蹴り割る木村大介君。

福岡県有形文化財指定祝賀千手観音大祭
観音堂の文化財指定を祝って

11月13日に興国寺で、県有形文化財の指定を祝う千手観音大祭が行われました。2月に町で4件目の文化財に指定された観音堂内で横山哲志住職の法要が行われ、女無法松の会と方城婦人太鼓の和太鼓演奏が境内で披露されました。町内外から参加した150人は、禅宗様式の簡素な美しさをもつ観音堂を大祭の後もしばらくながめていました。

↑町内の建造物で初めての文化財指定を受けた観音堂（左側）1719年建造。

↓姉妹でいもの大家族を引き抜きます。収穫の後は試食会を楽しみました。

さつまいもオーナーの収穫
待ちに待ったさつまいもお目見え

11月6日に上野のふれあい農園で、さつまいもの収穫が行われました。募集したオーナーが植え付けから収穫までを行うふれあい市主催の取り組みで、2年目の今年は117区画の応募がありました。植え付け作業から4か月後に収穫されたさつまいもは、長さ30㎝に成長。家族連れのオーナーたちは、収穫したいもを満足そうに抱えていました。

商工会ふるさとフェア
雨のステージに子どもたちの歓声

11月6日に町民会館前広場で商工会ふるさとフェアが行われました。雨天にもかかわらずおよそ2千人が会場を訪れ、30棟のテントで売られる食べ物や安売り商品などの買い物を楽しみました。特設ステージではコンサートやモチ投げが行われ、子ども向けのアトラクションでは、迫力の戦闘シーンに客席から歓声がわき起こっていました。

↑特設ステージの魔法戦隊マジレンジャーショー、子どもたちが必死に応援。

↓サークルをめがけて投げるダーマは、底の重みで思ったよりよくとびます。

スポーツ・レクリエーション2005
初めてのガラッキー体験

10月30日に田川郡社会体育振興協会主催のスポーツ・レクリエーションが金田町で行われました。郡内9町村から120人、町内から18人が参加、ニュースポーツのガラッキーを楽しみました。ガラッキーは1チーム3人がダーマと呼ばれる道具を6m先のサークルに投げて得点を競う競技で、参加者は初体験ながらも上手にポイントをとらえていました。

スポーツフェスタ・ふくおか ソフトバレーボール大会
赤池ラビットが鉄壁ブロックで優勝

11月6日に福岡市で行われたスポーツフェスタ・ふくおかのソフトバレーボール大会で14支所主体の女性チーム赤池ラビットが見事優勝しました。県レベルのこの大会は地区大会を勝ち抜いたチームで競われ、赤池ラビットはレディースの部に出場。決勝で20代中心の古前クラブ（北九州市）の攻撃をブロックで防ぎ、2－0で優勝を飾りました。

↑粘り強さが自慢の赤池ラビット、九州大会準優勝の実績があります。

↓大きなコイの体長は80㎝、泥に体をつかまれながら無心で捕まえました。

7区オリオン子ども会コイ捕り体験
泥とコイがとびはねる つかみ捕り体験

11月3日に市場の飛石下池で7区オリオン子ども会のコイ捕り体験が行われました。子ども会が一年前に放流した50匹のコイは体長が倍以上に成長、大きいものは80㎝ありました。参加した30人の子どもたちはみんな泥で真っ黒、「はじめはコイがヌルヌルして気持ち悪かったけど、慣れたら楽しかった」と泥まみれの顔から白い歯をのぞかせました。

自作の味は格別

そば打ち体験

10月30日に市場小学校で、学童クラブによる「そば打ち体験」が行われました。嘉穂町で手打ちそばの店を営むその道18年の進清治さんを講師に招き、25人の児童が参加しました。こね鉢でそば粉を練ることから初め、棒で25㎝四方に延ばした後、およそ5㎜間隔にめんを切っていきました。めん切り包丁を上手に使っていた男の子は「自分たちで打ったそばなので最高」と笑顔。自作のゆでたてのそばをおかわりして味わっていました。

↑「さわってみるかい？」そば粉と小麦粉に水を加えて練りあげた「そば玉」のお手本に、元気なたくさんの手が伸びました。

ずらり並んだ力作1400点

赤池町民文化祭

11月5日から2日間、町民会館で町民文化祭が行われました。福岡県指定文化財の東光寺経筒や国指定伝統的工芸品の上野焼をはじめ、写真・書・絵画など町内のアーティストによる約1400点の作品が所狭しと会場に並びました。恒例のお茶会やフラワーアレンジメント体験も盛況で、2400人の来場者は1点ずつじっくりと鑑賞していました。

↑恒例のお茶会で主客をもてなす小笠原古流の菊谷水月先生。

打ったボールに笑顔を乗せて

町民グラウンドゴルフ大会

↓敵も味方もなくお互いに声援をかけ、ボールの行方を見守ります。

町体協主催の町民グラウンドゴルフ大会が11月20日に町民グラウンドで行われました。町内から16チーム、96人が参加。心地よい日差しの中、ホールインワンが6本でるなど、16ホールでベテランの技術が光りました。熱戦の結果は次のとおりです。優勝／赤池ＮＴ、準優勝／5区・18支所混合チーム、３位／16・17支所混合チーム。

正しいストレッチがケガを防ぐ

健康体操教室

11月16日に筑豊地区の体育指導委員を対象にした健康体操教室が町民会館で行われました。健康体操の指導者養成が目的で30人が参加。講師に県体育協会クラブ育成アドバイザーの内田実さんを招き、ケガを予防する正しいストレッチについて学びました。骨や筋肉の構造説明をしながらのていねいな実技指導で、健康体操の理解を深めました。

↑高齢者の腰の負担に配慮した、座ってできるストレッチも学びました。

有明海の自然に環境保護を再確認

ひこさんがわ夢の会視察研修

↓シチメンソウ群生地、七面鳥のように変色することが名前の由来です。

ボランティア活動で河川敷を清掃している「ひこさんがわ夢の会」の55人が、11月13日に佐賀県有明海を視察しました。日本では有明海と大分県北部の海岸でしか見られないという「シチメンソウ」の自生地などを見学。分布の珍しい植物に触れ、河川美化や水質浄化、自然環境を守り続けることの重要性を再確認しました。

楽しみながら身近な人権学ぶ

人権擁護委員人権教室

11月15日に上野小学校で福岡県人権擁護委員会主催の人権教室が行われました。郡の人権擁護委員会が進行し、ビデオ上映の後、その内容のテーマである「いじめ」について児童と意見交換をしました。人権のイメージキャラクターも登場するなど、12月の赤池町人権旬間を前に119人の児童は、楽しみながら人権の大切さや尊さを学びました。

↑会場の入口を頭すれすれで通過した「人KENまもるくん」が登場。

完封で決勝進出 ベアーズ堂々の銀

横浜ベイスターズ杯争奪下関大会

↓下関大会で一戦一戦、成長を遂げた赤池ベアーズのメンバー。

11月5日から2日間、山口県下関球場で開かれた横浜ベイスターズ杯争奪下関大会で、赤池ベアーズが準優勝に輝きました。福岡県と中国地方から26チームが出場し、赤池ベアーズは準決勝で強豪福岡スラッガーズを4対0に完封。決勝で総社ボーイズ（岡山）に2対0で惜敗しましたが、ベアーズの健闘に会場から惜しみない拍手が送られました。

三町合併

問 福智町準備会事務局 ☎22-9090

新町「福智町」の町章決まる

一般公募で寄せられた919点の応募の中から決定しました

↓11月21日に金田町役場で開かれた町章選定委員会。最優秀賞に賞金10万円、候補に挙がった優秀賞に1万円が贈られます。

決定した福智町の町章

「F」の躍動感が高評価

来年の3月6日に赤池町・金田町・方城町の3町が合併して誕生する「福智町」の町章が決まりました。町章は福智町の「F」をイメージし、福智山をデザインしたもの。澄みきった青空の下、緑豊かな大地に心・技・体の風が吹き、人々を包み、守る形が表現されています。

町章のデザインは一般公募した919点の応募の中から、デザインコンサルタントと事務局が50点に絞りさらに各町3人で構成する選考委員会が候補5点を決め、最終的に町長・議長らで構成する選考委員会（渡久兵衛会長）が投票制で決定しました。新町の町章は、山梨県の平井順さん35歳の作品が選ばれました。

【候補1】活気あふれる町、未来に羽ばたき広がる福智町の「ふ」を表現。

【候補2】福智町のアルファベットF・K・Cを人形にしてつないだ作品。

【候補4】「ふ」をモチーフに、未来に向かって飛躍・発展する姿を表現。

【候補5】真っ赤な太陽が「心」、緑の山々で「体」、青い清流で「技」を表現。

公共工事

問 役場総務課管財係 ☎28-2004

検査員を総務課に配置しました

「赤池町が発注する公共工事の入札及び契約の適正化検討委員会」がまとめた報告書に基づき、10月19日から赤池町公共工事検査員を総務課に配置しています。

報告書では公共工事の竣工検査を委託も含めて検討するよう求めていましたが、外部委託では高額な費用がかかるため、町単独で専門職を配置。設計どおりの工事が行われていることの確認や材料の品質チェックを行います。公共工事検査員は、みなさんに広く使われる施設や道路などの品質と安全を確保し、住民の利益と公共の財産を守る役割を果たします。

←現場で図面を確認する中山力検査員（右）、直方市役所で土木関係の技術職を長年務めたベテランです。確かな目で細部までチェックします。

愛の贈り物

「ありがとうございました」

赤池町社会福祉協議会

10月17日～11月16日 順不同敬称略

【香典返し】
八隅八千代（草場下組）故 佐藤益代
篠原ミチ子（山崎）故 筆幸
内田敏夫（車道）故 高見義子
大井久幸（伏原団地）故 サチヱ
以上4件 7万円

【寄付】 匿名2件 8千3百円
山本眞由美 1千円
上野焼協同組合 3万円

【ふれあい基金】 福祉バス内基金箱 4万9千734円

【古切手】
近藤佳月子 540枚

12月の福祉センター行事

【心配ごと相談】
7日㈭ 行政、人権相談
19日㈪ 生活、人権相談
すべて10時30分～15時

【介護保険相談】
13日㈫ 10時～16時

【福祉バス】
12月29日㈭から平成18年1月3日㈫まで年末年始運休。12月23日㈮から1月9日㈪までの冬休み期間中は日曜日と同じ運行時間となりますので、お間違えのないようにお願いします。

【健康チェック室利用料】
ヘルストロン（1回20分）50円
低周波治療（1回20分）百円

【生きがいデイサービス】
今年も早いもので師走を迎えました。今月はデイサービスと趣味の教室の日程に変更があります。なお、23日㈮は祭日のため22日㈭にデイサービスを行います。
今月の各教室の日程は次のとおりです。どうぞお気軽に参加ください。
▼書道教室 13日㈫▼絵手紙教室 6日㈫・20日㈫▼レザークラフト教室 2日㈮・16日㈮▼トレーニング教室 2日㈮・16日㈮

問 赤池町社会福祉協議会 ☎（28）4646

ありがとうございました 町立養護老人ホーム天郷荘

【柿3.8kg・ゆず3.4kg】
太田ナツヨ
【石けん30個・ぞうきん百枚】
吉田陽子
【みかん10kg】 定善寺

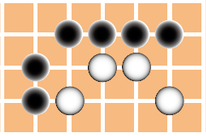
囲碁同好会だより

11月例会

A パート 優勝 高瀬 俊恭 さん 桜NT
B パート 優勝 池田 克彦 さん 上の原

次回 12月例会 11日（日）9:30－16:00
町民会館第三会議室 安田会長より

12月の詰碁 黒先 白死



正解者には粗品を贈呈します
解答は月例会か初心者教室へ

養命大学・隣保館句会

作句は自分を知る事のできる鏡のやうなもの

池田一歩選

笹鳴や径もこゝ迄禁猟区 選者 吟
人生の終の俳諧文化の日 末松トモ子
今年はも背筋伸ばして柿吊す 熊谷カツミ
かいつぶり水面を滑ることもして 有川 信子
居残って一人見送る紅葉狩 本多 ミチ
まほろばの草の錦の中を行く 吉田 弘
赤い羽根つけて心の安らぎぬ 皆川 和子
柿落葉かさこそ話す通り風 久松ミサオ
店頭の新書をめくる文化の日 亀谷千恵子
蕾立つ菊の黄色をのぞかせて 神田恵美子
立冬や福智の峰のくっきりと 宇野八重子
近づけばひとり遊びの小鳥かな 森 玲子
露の身の呆けを封じに鎮国寺 寺内ノブエ
三匹の猫が破りし障子貼る 丸山 鈴子
しぐるゝや行く先霞む一輌車 安田 健一
文化祭人の技術に目を見張る 白石 幸子
露結ぶ山の句碑にもある孤独 小場 妙子
うそ寒や身の丈一寸低くなり 大久保幸子
団栗を踏めば追慕の音はじく 池田 駒女

パノラマたがわ

PANORAMA TAGAWA 田川

田川市郡のイベント情報

■田川市■ ☎44-2000
○クリスマスパーティーinTAGAWA
12月17日㈰ 11時～14時30分
参加費：大人／600円
小学生以下／300円
申し込み期限：12月5日㈪～15日㈭
内容：外国のクリスマスの紹介やクリスマスソングの生演奏などを行います。
（田川市民会館）

■金田町■ ☎22-0556
○えびすまつり（菅原神社境内）
12月2日㈮ 17時～21時30分
12月3日㈰ 7時～11時

■方城町■ ☎22-0520
○ロマンティックX'masコンサート
12月14日㈭ 19時～
前売り券：大人2000円
中学生以下1000円
（地域交流センター）

■香春町■ ☎32-2511
○香春町平成万葉の集い
12月4日㈰ 13時30分～
内容：特選歌、入選歌表彰の表彰やチェロの独奏があります。
（香春町民センター）

■川崎町■ ☎72-3000
○小さな森のコンサート（入場無料）
12月10日㈰ 18時30分～
内容：クラシックコンサートやポップステージがあります。
（役場一階ホール）

■赤 村■ ☎62-3000
○大相撲・式秀部屋がやってくる
12月11日㈰ 9時～12時
内容：元小結大潮の式秀親方が部屋の力士を引き連れて、子ども相撲教室、ちゃんこ鍋やもちつきなどを行います。 ※ 子ども相撲教室は、小学生以下申し込み可。
問 赤村体育協会 ☎62-2790

■大任町■ ☎63-3000
○人権講演会「地底の仲間たち」
12月5日㈰ 13時30分～
（大任町公民館）
問 社会教育課 ☎63-2242

■添田町■ ☎82-1232
○三遊亭歌之介独演会（オークホール）
12月22日㈭ 18時30分～
入場料：全席自由2000円

情報ひろば

中学に農林高が出前授業

↑水質調査に使われる道具説明では、調査方法のコツも学びました。

田川農林高校の生徒を招いた出前授業が11月25日に赤池中で行われました。農林土木科3年生の4人が、田川地区の水質調査とメダカの生育状況の研究内容をスライドを使って説明。「彦山川は汚れていると思いますか」との質問に1年生112人の半数以上が手を挙げ、身近な川の水質への関心の高さを示しました。

私の主張大会
赤池町教育委員会社会教育課

町内の小中学生が日常生活で感じたことや体験したこと、日ごろ考えていることなどを発表します。参加無料。

日時 12月17日(土) 10時～
会場 赤池町同和対策中央研修所
問 赤池町教育委員会

納税強調月間
赤池町

12月は赤池町の納税強調月間です。税金や使用料などの納め忘れはありませんか？

住民税、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税のほか、町営住宅使用料、住宅新築資金、水道使用料、汚水使用料、学校給食費など納め忘れのないようお願いいたします。

工業統計調査
経済産業省・福岡県・赤池町

平成17年度工業統計調査を12月31日現在で行います。12月から1月にかけて調査員が伺いますのでご協力をお願いします。調査票の調査内容は、統計法に基づき厳守されます。

問 役場企画財政課企画統計係
内線233・234

保育料の口座振替制度
役場住民課福祉係

保護者の利便性を考え、保育料の口座振替が平成18年1月納入分からできるようになりました。希望されるかたは、保育所または役場にある申し込み用紙に必要事項を記入し、12月15日(木)までに役場住民課福祉係に通帳と通帳の届け印を持参して提出してください。詳しくはお問い合わせください。

問 役場住民課福祉係 内線112

高齢者総合相談
福岡県社会福祉協議会

期日 12月11日(日)
会場 総合保健施設コスモス
【講演】 10時30分～12時
講師 福岡県弁護士会の弁護士
演題 「相談事例による法律問題」
【移動相談】 13時～16時

法律相談を福岡県弁護士会の弁護士2人が無料でお受けします。一般相談、福祉サービス相談も行います。法律相談については1人30分程度で、定員は12人、事前の予約が必要です。

申し込み問い合わせ先
赤池町社会福祉協議会
☎(28)4646

技能試験の一部休止
県警察本部運転免許試験課

筑豊自動車運転免許試験場では技能試験コース改修に伴う技能試験などの一部を休止します。

休止期間 12月1日(木)～平成18年3月31日(金)
休止する技能試験
①普通一種・二種、普通仮免許
②大型・普通二輪 ③普通一種、大型・普通二輪の外国免許から日本免許への切り替え時の技能確認
④自動車安全運転実技講習
詳しくはお問い合わせください。
問 筑豊自動車運転免許試験場
☎0948(82)0160

笑って歌って踊った天郷荘敬老会

↑職員による踊りが雰囲気を盛り上げます

10月27日に町立養護老人ホーム天郷荘で敬老会が行われました。入荘者26人は、歌や踊り、身近な人をモデルにした福笑い百面相など9演目を楽しみました。

育てた菊の苗を市場小3年が寄贈

↑11月16日に浦田町長へ手渡す児童たち

市場小3年生が育てた菊の苗24鉢を町内4か所の施設や店舗に寄贈しました。5月から大切に育てた菊は、白・赤・ピンク・黄色のかわいい花を咲かせていました。

12月28日は固定資産税4期・国保税6期の納期限です／赤池町

Information

10年ぶり草場文化祭

↑「さげもの」とよばれる手芸品も人気でした。

11月12日から2日間、10年ぶりの草場地区文化祭が集会所で行われました。地域から43の家庭が121点を出品、古代米の稲穂や歴代区長が受け継ぐ掛け軸など珍しい品も並びました。入口ではぜんざいも振る舞われ、107人の来場者は心も体も温まった様子でした。

農業用免税軽油発行事務
飯塚県税事務所

平成17年4月1日から福岡県の県税事務所が再編されたことにより、田川県税事務所で農業用免税軽油の発行事務ができなくなりました。そのため、事前に申請書などを飯塚・直方県税事務所に郵送をお願いします。

申し込み問い合わせ先
飯塚・直方県税事務所関税係
☎0948(23)4111

マッサージの営業資格
㈳福岡県鍼灸マッサージ師会

マッサージなどの指圧で営業する場合は、国が認定した学校または養成施設で3年以上学んだ後、国が行う試験に合格して免許を取得する必要があります。また、免許を取得した人が行う場所については、保健福祉環境事務所に届け出ることになっています。

問 福岡県保健福祉部医療指導課
☎092(643)3273

オリジナルカレンダー発売
平成筑豊鉄道株式会社

平成18年版沿線の四季折々の写真を織り交ぜたオリジナルカレンダーを発売しています。価格は1部5百円、平成筑豊鉄道各駅窓口で販売します。（赤池町内では、お好み焼き美代店）なお、郵送販売も受け付けています。住所・氏名・電話番号を明記し、5百円分の郵便為替・390円分の切手を同封のうえ、営業部カレンダー係まで郵送してください。

問 平成筑豊鉄道株式会社
☎(22)1000（金田町金田）

ギャラリー陶のイベント
上野焼陶芸館

「花器展」（上野焼伝統工芸士会）
期間 12月12日(月)まで
「新春の器展」（上野焼協同組合）
期間 12月14日(水)～1月9日(月)
営業時間 10時～17時
定休日 毎週火曜日
会場 上野焼陶芸館ギャラリー陶
問 上野焼陶芸館
☎(28)5864

10月の町内事件事故件数
田川警察署

○自転車盗等	3件	(前月比＋3)
○自販機荒し	0件	(前月比△1)
○車上ねらい	1件	(前月比±0)
○空き巣	1件	(前月比±0)
○交通事故	6件	(前月比±0)
うち負傷者	8人	(前月比＋2)

貯金箱コンクール入賞

↑重さを比べられるシーソー型貯金箱と田中さん

日本郵政公社の「私のアイデア貯金箱コンクール」で田中萌さん（市場小2）がシーソー形のユニークな貯金箱で九州支社長賞を受賞しました。また武末芽依さん（上野小3）が貯金事業部長賞を、田中祐樹さん（市場小6）と山上亜子さん（上野小2）が赤池郵便局長賞を受賞しました。

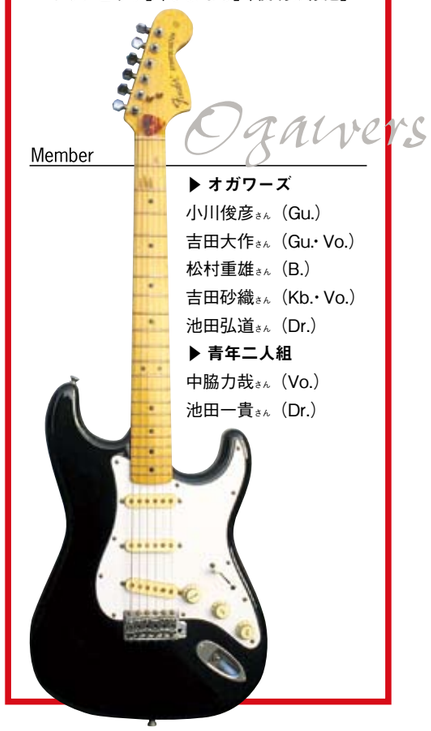
12月24日(土) クリスマスコンサート2005

入場無料
PM1:30～
赤池町役場ホール

オガワーズと青年二人組のコラボレーション演奏をお楽しみください！

【第一部】 バンド演奏
オガワーズ
♬ ベンチャーズの「10番街の殺人」「キャラバン」「バットマン」etc...
♬ 加山雄三の「蒼い星くず」「ブラック・サンド・ビーチ」etc...
♬ グループサウンズ…ザ・ワイルド・ワンズの「思い出の渚」etc...

【第2部】 バンド演奏
オガワーズ＆青年二人組
♬ 2003年赤池町が制作したCD〝ウタガキ 「歌垣」〟から「くらべっこ」「ねぇ！ママ」「虫たちのオリンピック」「さよなら」「夜明け赤池」



▶ **オガワーズ**
小川俊彦さん（Gu.）
吉田大作さん（Gu.・Vo.）
松村重雄さん（B.）
吉田砂織さん（Kb.・Vo.）
池田弘道さん（Dr.）
▶ **青年二人組**
中脇力哉さん（Vo.）
池田一貴さん（Dr.）

12月は大気汚染防止推進月間・地球温暖化防止月間です／環境省

Happy Birthday

12月生まれ★お誕生日おめでとう！

発行月にお誕生日を迎える３歳までの子を募集します。掲載は先着順３人まで。
申し込み期限は発行前月の 15 日です。掲載のご予約は、お気軽に！お早めに！

新原（しんばら） 雄太（ゆうた）くん

３歳　男の子（草場下組）
H14 年 12 月 21 日生まれ

「泣き虫だけどやさしい ゆうちゃん、ゆうたは 我が家の宝物だよ♡」

（パパ、ママより）

久冨（ひさとみ） 朱璃（あかり）ちゃん

３歳　女の子（徳市団地）
H14 年 12 月 30 日生まれ

「おしゃべりがとても 上手になって 我が家に 笑いが増えました」

（パパ ママより）

人の動き Movement

平成17年10月末日現在（ ）内は前月比

人口	１０，０１８	（−10）
男性	４，６８７	（±０）
女性	５，３３１	（−10）
世帯	４，０４４	（＋１）

転入23　転出39　出生13　死亡８

▼「健診さえ受けていれば、また会えたかも知れない」。空へと旅だった大切な人のことを思うと、やり場のない感情が込み上げます。たとえ遠く離れていても、生きてさえいればまた会えます。大切な人の「存在」は、生きていくうえでかけがえのないもの。先送りして、手遅れになってからでは遅いのです。目を背けないで、勇気を出して健診を受けてください。（長野）

▼役場に入ってはじめて健診を受けました。普段は「自分は健康だけがとりえ」と自負していますが、かくれた病気は健診のような機会がないと見つかりません。心配性の母は「健診で病気が見つかるのが怖い」となかなか受診しませんが、今回の特集を機に、母に健診を勧めたいと思います。（末永）

保健の掲示板

12/15～1/15

12月16日(金)【ポリオ】
✻ 多目的ルーム／受付：13:30 ～ 14:20
生後３か月～ 18 か月児を対象

12月19日(月)【乳児相談】
✻ 多目的ルーム／受付：13:30 ～ 14:30
生後３か月～ 12 か月児を対象（身体計測・相談など）

12月20日(火)【笑べっこくらぶ～オープンルーム】
✻ わいわいルーム／受付：10:30 ～ 11:30
就園前の乳幼児と保護者を対象（絵本の読み聞かせ）

12月21日(水)【住民健康相談】
✻ 会議室／受付：9:00 ～ 12:00
健康や介護で相談のある人を対象、動脈硬化測定（要予約）

12月26日(月)【母子手帳交付制度説明会】
✻ 多目的ルーム ／受付：13:00 ～ 13:30
妊婦さん（パパもどうぞ）を対象

1月11日(水)【健診結果説明会】
✻ 多目的ルーム ／受付：13:30 ～ 15:00
11 月 16 日～ 12 月 15 日の間に健診を受けた人を対象

1月12日(木)【親子であそぼ教室】
✻ 多目的ルーム ／受付：10:00 ～ 11:30
就園前の乳幼児と保護者を対象

1月12日(木)【三種混合】
✻ 多目的ルーム ／受付：13:30 ～ 14:20
生後３か月～ 12 か月児を対象

1月13日(金)【BCG】
✻ 多目的ルーム ／受付：13:30 ～ 14:20
生後３か月～６か月未満児を対象

※ ✻ マークは「コスモス保健福祉センター」内の会場です。
※ 三種混合は 90 か月まで接種できます。
問 コスモス保健福祉センター保健課健康づくり係 ☎ 28-9500

年末年始の救急医療　※ 保険証をお忘れなく

田川地区休日救急医療センター　☎ 45-7199
診療日　12 月 31 日(土)・1 月 1 日(日)・２日(月)・３日(火)の４日間
受付時間・診療科目
【内科・小児科】9:00～11:30
13:00 ～ 16:30 ／ 18:00 ～ 22:30
【外科】9:00～11:30／ 13:00～16:30

年末年始のゴミ収集

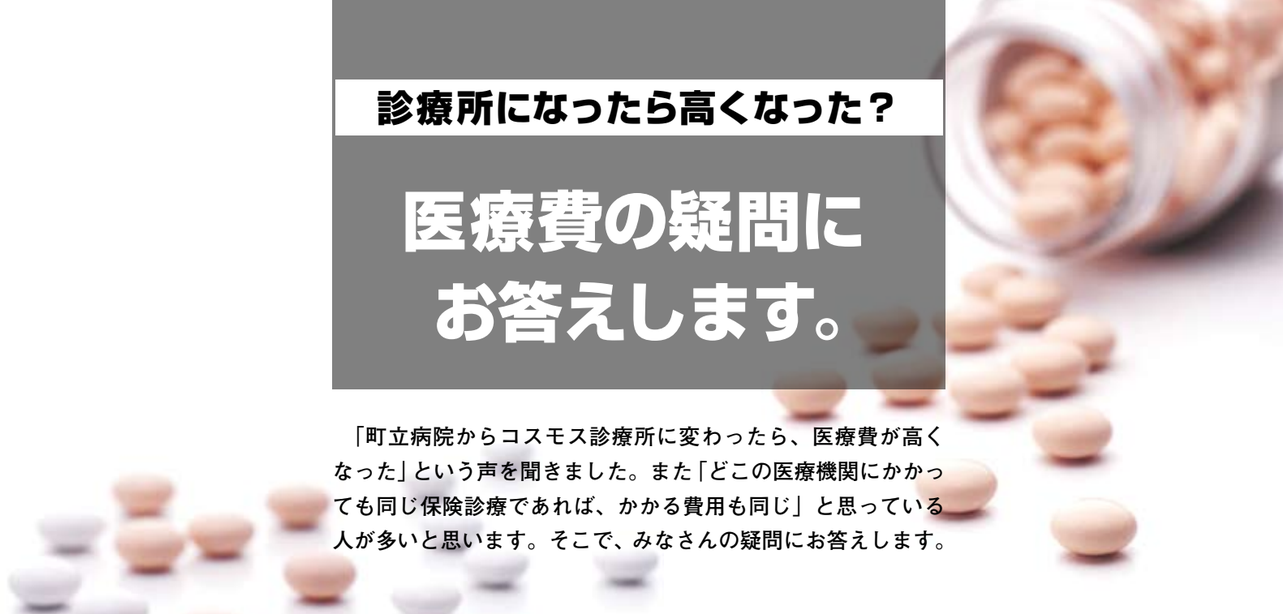
- 12 月 30 日(金)～１月３日(火)はお休みです。
- １月３日(火)が収集地区の燃えるゴミ収集は、１月４日(水)に変更
- １月4日(水)が収集地区の資源ゴミ（緑）収集は、1月7日(土)に変更

年末年始のし尿処理

頴田環境開発	☎ 28-3377	12 月 31 日(土)～1 月 3 日(火)は休業
筑豊衛生環境	☎ 22-1054	12 月 29 日(木)～1 月 4 日(水)は休業
吉田環境整備	☎ 22-0221	12 月 30 日(金)～1 月 4 日(水)は休業

診療所になったら高くなった？

医療費の疑問にお答えします。



「町立病院からコスモス診療所に変わったら、医療費が高くなった」という声を聞きました。また「どこの医療機関にかかっても同じ保険診療であれば、かかる費用も同じ」と思っている人が多いと思います。そこで、みなさんの疑問にお答えします。

医療機関の規模で格差

外来の医療費は、病院や診療所といった施設の規模などで異なり、場合によっては何倍もの差がつくこともあります。外来の医療費は、おおまかに「診療基本料」「指導管理料」「検査・治療料」「薬代」を積み上げて計算します。再診の患者の場合、診てもらうたびに必ずかかる「再診料」が診療基本料にあたります。これは 200 床以上の大病院が最も安く、診療所が最も高くなっています。

例えば「初診料」一つとっても診療所は 2,740 円（自己負担分３割として 822 円）、病院では 2,550 円（自己負担分３割として 765 円）となり、診療所として比較すると 190 円病院の方がやや安くなっています。しかし、大病院では診療所や病院の紹介状がないと「初診時特定療養費」という追加料金を求められることがあります。この追加料金は 200 床以上の病院が設定でき、患者から徴収する料金は病院によって異なります。

機能分化による報酬差

厚生労働省が同じ診療行為や処方でも医療機関によって診療報酬に差をつけているのは、外来患者を診療所や小さな病院に誘導し、大病院は入院医療に集中させるという機能分化を促進しているためです。医療費の自己負担が３割になり、患者が医療機関を選ぶときは、費用だけでなく、症状の緊急度や診療の質などと合わせて総合的に判断をしていただくことになります。

以上、おおまかに説明しましたが、詳しくはコスモス診療所 ☎ 28-2083 までお問い合わせください。

変異しているインフルエンザウイルス

【新型インフルエンザって何ですか】
インフルエンザは、人だけでなく、他の動物も感染します。通常、例えば人から人へといった同種の間で感染するものですが、インフルエンザウイルスの性質が変わる（変異する）ことによって、これまでに、人に感染しなかったインフルエンザウイルスが、人へ感染するようになり、そしてさらに人から人へ感染するようになります。この変異したウイルスによって起こるインフルエンザを新型インフルエンザといいます。

【予防はどうしたらいいですか】
通常のインフルエンザは、感染した人のせきやくしゃみで放出されたウイルスを吸うことによって感染します。そのため、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えることが重要です。

髪切るヒマがあったら 健診受けましょ

第19回住民福祉講座が11月19日に中央研修所で開かれました。講師に俳優の大村崑さんを迎え、5百人以上入った満員御礼の会場は、大いににぎわいました。

妻が先に逝くと夫は3年以内に亡くなり、逆の場合は16年も生きること。万病の元になるストレスを発散する方法は ①笑う ②買い物 ③うわさ話、すべて女性に備わっていること。森繁久彌さんの長生きの秘けつ。母のオムツを替えて介護した体験談などなど、笑いあり涙ありの講演でした。

その中で特に強調したのが予防の話。髪を切りに行く時間があれば健診を受けられるはず。「自分のために健診を」と74歳の大村さんが切実に語りかけました。

↑総合司会は赤池町出身のおおぎけいこさんでした。

町長日誌

▼10月29日午後2時過ぎ、韓国・釜山空港に着いた。初めての海外経験となる私は、未知の国に足を踏み入れるということで、少し想像力を逞しくしていた。しかし、機外に出ると、周囲の風景は日本と変わらず、思わず安心感を覚える程だった。さすがに、道路沿いの看板に記された文字は日本語ではなかったが、車の右側通行を除けば、全く違和感はなかった▼3年前の平成14年秋に、上野焼開窯4百年を記念して各種イベントが行われる中で、韓国泗川市とのかかわりができた。それを機に、昨年から小学生の交流が始まり、今年は町内の6年生が、泗川市の三成初等学校を訪問することになった。今回の渡韓は、交流2日目に予定されていた歓迎レセプションに出席するためだったが、多くの善意に触れ、まさに、感謝感激▼日韓両国間には、過去の不幸な歴史にかかわる問題（社会科教科書や靖国神社参拝等）が、いまだに物議を醸しており、一日も早く解決されることを望むばかりである。幸い、子ども達は、そんな垣根など微塵も感じさせることなく、すぐに打ち解けて、友情を分ち合っていた。その様子を見ながら、近くて遠い国と言われていたことが、早く昔話となれるよう、更に友好関係を深めていかなければならないとの思いが募った。（赤池町長　浦田 弘二）